

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年6月25日

【事業年度】 第20期(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

【会社名】 株式会社NexTone

【英訳名】 NexTone Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役CEO 阿南雅浩

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区広尾一丁目1番39号 恵比寿プライムスクエアタワー20F

【電話番号】 03-5766-8086

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営管理本部長 桃枝宏之

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区広尾一丁目1番39号 恵比寿プライムスクエアタワー20F

【電話番号】 03-5766-8086

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営管理本部長 桃枝宏之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第18期	第19期	第20期
決算年月		2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高	(千円)	2,331,899	3,239,801	4,345,481
経常利益	(千円)	103,467	186,254	295,228
親会社株主に帰属する 当期純利益	(千円)	61,283	129,593	191,488
包括利益	(千円)	61,888	134,362	190,075
純資産額	(千円)	1,209,269	1,343,632	2,120,821
総資産額	(千円)	2,645,587	3,135,846	4,246,891
1株当たり純資産額	(円)	446.75	494.77	688.80
1株当たり当期純利益	(円)	26.90	47.93	70.68
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	66.75
自己資本比率	(%)	45.7	42.7	49.9
自己資本利益率	(%)	6.0	10.2	11.1
株価収益率	(倍)	-	-	35.9
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	295,301	530,255	927,175
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	157,140	86,912	231,816
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	321,000	15,000	586,500
現金及び現金同等物 の期末残高	(千円)	1,602,647	2,031,254	3,313,113
従業員数 〔ほか、平均臨時 雇用人員〕	(名)	57 〔1〕	62 〔3〕	63 〔4〕

- (注) 1. 当社は第18期より連結財務諸表を作成しております。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第18期及び第19期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であったため、期中平均株価が把握できませんので、記載しておりません。
4. 第18期及び第19期の株価収益率は、当社株式は非上場であったため記載しておりません。
5. 第18期、第19期及び第20期の連結財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの監査を受けております。
6. 2019年12月26日開催の取締役会決議により、2020年1月15日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、第18期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第16期	第17期	第18期	第19期	第20期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	1,172,755	1,604,432	2,179,111	3,032,697	4,234,768
経常利益 (千円)	46,643	36,085	92,965	145,289	290,088
当期純利益又は当期純損失 (千円)	153,230	41,676	61,948	110,414	187,681
資本金 (千円)	603,012	659,262	819,762	819,762	1,113,012
発行済株式総数 (株)	10,630	11,380	13,520	13,520	3,079,000
純資産額 (千円)	638,939	793,115	1,176,063	1,286,478	2,060,659
総資産額 (千円)	1,280,316	1,598,135	2,408,777	2,881,708	4,071,074
1株当たり純資産額 (円)	60,107.16	69,693.82	434.93	475.77	669.26
1株当たり配当額 (円)	-	-	-	-	-
(1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失 (円)	22,949.98	3,919.90	27.19	40.83	69.28
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	65.42
自己資本比率 (%)	49.9	49.6	48.8	44.6	50.6
自己資本利益率 (%)	-	5.8	6.3	9.0	11.2
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	36.6
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
従業員数〔ほか、平均臨時雇用人員〕 (名)	35 [-]	47 [-]	52 [1]	57 [3]	63 [4]
株主総利回り (比較指標： -) (%)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
最高株価 (円)	-	-	-	-	2,537
最低株価 (円)	-	-	-	-	1,580

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 1株当たり配当額及び配当性向については、配当を実施していないため記載しておりません。

3. 第16期から第19期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であったため、期中平均株価が把握できませんので、記載しておりません。

4. 第16期の自己資本利益率は、当期純損失であるため、記載しておりません。

5. 第16期から第19期までの株価収益率については、当社株式は非上場であったため記載しておりません。

6. 第16期から第20期の株主総利回り及び比較指標については、当社は2020年3月30日付で東京証券取引所マザーズに上場したため、記載しておりません。

7. 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズにおける株価を記載しております。

なお、2020年3月30日に同取引所に株式を上場いたしましたので、それ以前の株価については記載しておりません。

8. 第18期、第19期及び第20期の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任監査法人トーマツの監査を受けておりますが、第16期及び第17期の財務諸表については、当該監査を受けておりません。

9. 2019年12月26日開催の取締役会決議により、2020年1月15日付で普通株式1株につき200株の株式分割を行っておりますが、第18期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

2 【沿革】

わが国では、1899年（明治32年）に旧著作権法が制定されましたが、その後も音楽の分野では楽曲の無断演奏などが横行する状況が続いたため、1939年（昭和14年）に「著作権二関スル仲介業務二関スル法律」（仲介業務法）が制定されました。この法律の目的は、著作権が正当に行使されるために国の指導監督の下で著作権の集中管理を行う団体を一分野一団体を原則として作ることにありました。

仲介業務法が制定された年に、音楽の分野では「社団法人大日本音楽著作権協会」（現「一般社団法人日本音楽著作権協会」。以下「JASRAC」）が設立され、事業の許可を受けました。JASRACは、この法律の下で音楽分野の唯一の著作権管理団体として、以後その役割を一手に担ってきました。

その約60年後、2001年10月1日に「著作権等管理事業法」（2000年11月29日公布）が施行されると同時に「仲介業務法」は廃止され、これによって「事業の許可制が登録制へ」、「使用料の認可制が届出制へ」と変わり、一分野一団体の原則がなくなり、広く民間に著作権管理業務に関する門戸が開放されました。これは、民間事業における規制緩和政策の一環でもありました。

当社の前身の一社である株式会社イーライセンス(現:当社、以下「イーライセンス」)は、著作権等管理事業法の成立を前提に、2000年9月、東京都港区南麻布3丁目に、三野明洋（当社元取締役会長、2019年6月まで相談役）が設立したものです。

一方、当社の前身のもう一社である株式会社ジャパン・ライツ・クリアランス（以下「JRC」）は、2000年12月に、アーティストマネージメントオフィス11社の出資によって、当社の現代表取締役COOである荒川祐二が代表取締役となって設立されました。

両社は、以後約15年にわたり各々著作権管理事業を行っていましたが、イーライセンスの代表取締役社長であった阿南雅浩（現当社代表取締役CEO）は、音楽著作権市場に健全な競争原理を導入するためには、市場No.2、No.3のイーライセンスとJRCが事業統合してJASRACの対抗軸となることが合理的と考え、JRCの代表取締役社長であった荒川祐二に合併を提案し、賛同を得ました。

そして、2016年2月に合併が実現し、商号を「株式会社NexTone」に変更するとともに、同年5月に本社を東京都渋谷区広尾1丁目に移転いたしました。

なお、2020年3月30日に東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。

年月	概要
2000年9月	著作権管理事業を主たる目的とし、東京都港区南麻布3丁目にイーライセンス設立
2000年11月	旧「著作権仲介業務法」を廃法とし、「著作権等管理事業法」が国会で成立
2000年12月	著作権管理事業を主たる目的とし、JRC（資本金1,200万円、2016年2月1日付でイーライセンスと合併し消滅）設立
2001年9月	イーライセンスが100%子会社として代表出版及び管理代行を目的とした音楽出版社、株式会社エムシージェイピー（以下「MCJP」）設立
2001年10月	イーライセンスが「著作権等管理事業法」施行に伴い、民間管理事業者届出第1号として申請（受理No.01005）（音楽著作権における支分権「録音権等」及び利用形態「インタラクティブ配信」の管理に限定）
2001年10月	JRCが「著作権等管理事業法」施行に伴い、著作権等管理事業者として届出（受理No.01011）（音楽著作権における支分権「録音権等」及び利用形態「インタラクティブ配信」の管理に限定）
2002年4月	複数管理事業者による著作権管理事業開始
2002年4月	イーライセンスが一般社団法人日本レコード協会と録音権を中心とした包括契約締結
2003年4月	MCJPが著作権と著作隣接権（原盤権）のワンストップサービス実施のため、DD（デジタルコンテンツディストリビューション）業務開始
2003年7月	イーライセンスがネットワーク音楽著作権連絡協議会とインタラクティブ配信（ストリーム配信）に関する包括契約締結（管理事業者間の按分処理実施）
2005年4月	イーライセンスが私的録音補償金について、一般社団法人日本音楽著作権協会（JASRAC）経由で徴収開始（2003年4月1日に遡及し適用）
2005年9月	JRCがiTunes Music Storeにて、日本人アーティスト・楽曲では初めてとなる「日本発全世界同時配信」のコーディネート及び配信業務を開始
2006年4月	イーライセンスが複数管理事業開始後、民間管理事業者初の放送等新規支分権管理に参入
2006年7月	DD業務をMCJPからイーライセンスに移管し、DD業務を本格稼働
2006年10月	イーライセンスが日本放送協会及び日本民間放送連盟と放送に関する包括契約合意、放送/有線放送に関する利用許諾開始
2007年2月	JRCが100%子会社として株式会社JRCラボラトリーズ（2016年2月のイーライセンスとJRCの合併により株式会社NexToneラボラトリーズに商号変更、2018年4月に当社が吸収合併）設立
2007年4月	イーライセンスが出版権等・貸与権・業務用通信カラオケの管理開始
2009年7月	イーライセンスが著作権等管理事業法に定める非一任管理（録音・出版の商品化利用及び広告目的利用）開始
2011年7月	イーライセンスが100%子会社として株式会社イーライセンスシステムズ（現：株式会社NexToneシステムズ）設立
2012年1月	イーライセンスがレンタル用包括ビデオグラムの利用許諾開始
2012年4月	イーライセンスがキャストイング事業を開始
2012年10月	イーライセンスがインタラクティブ配信（ゲーム）の利用許諾開始
2013年9月	イーライセンスが主に東南アジアにおける著作権等管理事業を行うことを目的とするOne Asia Music Inc.（当初持株比率74.0%、2019年4月に保有株式の一部を譲渡し現在は10.0%に減少）を台湾・台北に設立
2014年4月	イーライセンスが一般社団法人音楽電子事業協会と包括契約を締結し、業務用通信カラオケの利用許諾開始
2014年6月	イーライセンスがYouTubeにおけるコンテンツマネージメントサービス（ユーザー投稿動画のマネタイズと監視パトロールサービス）を開始
2015年3月	エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社（現：エイベックス株式会社、以下「エイベックス」）の100%子会社であるエイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社（以下「AMP」）がイーライセンス発行済株式の16.8%を既存株主から取得し、エイベックスがイーライセンスを持分法適用関連会社化
2015年9月	AMPがイーライセンスの株式を追加取得し持株比率を34.4%とするとともに、JRCの発行済株式の46.6%を取得し、エイベックスがJRCを持分法適用関連会社化
2016年2月	イーライセンス（存続会社）とJRC（消滅会社）が合併、事業統合し株式会社NexTone発足
2016年5月	本店所在地を東京都渋谷区広尾一丁目1番39号 恵比寿プライムスクエアタワー20Fに移転

年月	概要
2017年4月	当社で著作権管理を行っている著作物の「著作権使用料分配実績上位3作品」の著作者及び音楽出版社を表彰する「NexTone Award (ネクストーン・アワード)」を創設 (第1回"Gold Medal"受賞曲:スピッツ『渚』)
2017年4月	著作権管理事業において「イーライセンス事業本部」「JRC事業本部」の二事業本部を「事業本部」に統合
2017年8月	YouTubeにおける管理著作物の利用に関して「データエクスチェンジ機能に基づく利用許諾契約」を、世界中の著作権等管理事業者の中でも最初期のタイミングでGoogle社と締結
2018年4月	100%子会社である株式会社NexToneラボラトリーズを吸収合併
2020年1月	Google社と北米地域における著作権使用料徴収に関する利用許諾契約を締結
2020年3月	東京証券取引所マザーズに株式を上場

3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社2社（株式会社エムシージェイピー及び株式会社NextOneシステムズ）により構成されております。

当社は、2016年2月1日に株式会社イーライセンスと株式会社ジャパン・ライツ・クリアランスの合併・事業統合により発足いたしました。以来2017年3月末まで、旧2社それぞれの作品委託契約並びに利用許諾契約に基づき、2事業本部制による管理業務を行ってまいりましたが、2017年4月1日より契約約款、使用料規程などを整え、管理体制やシステムを統合し完全統合した新生「NextOne」としての新たなスタートを切りました。

当社グループは経営理念である「権利者に選ばれ、利用者から支持される著作権管理事業者となる」ことを目指し、公平・公正かつ透明性の高い著作権使用料の徴収・分配を行うこと、権利者の裁量により著作物利用に対し迅速かつ柔軟に対応すること、最新のテクノロジーを活用した効率的な管理・運営によりコストを削減することなどを心がけております。

当社及び当社の関係会社の事業における当社及び関係会社の位置付け及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一の区分であります。

著作権等管理事業（著作権管理業務）

著作権とは、思想や感情を創作的に表現した著作物の利用方法を独占的にコントロール出来る権利です。音楽分野では、「詞」「曲」が著作物となります。

当社は、著作権等管理事業法に定められる著作権管理事業者として文化庁に登録されており、音楽分野における著作物の管理を行っております。（登録番号01005）

音楽著作権管理事業においては、著作権法の権利区分を基本としながら、利用の実態等を鑑みて、下図のとおり音楽著作権の4つの支分権と7つの利用形態に区分け管理を行っております。

音楽著作権の4つの支分権（～）と7つの利用形態（～）の概念図

① 演奏権等	② 録音権等	③ 出版権等	④ 貸与権
<ul style="list-style-type: none"> ● コンサートでの演奏 ● カラオケ ● 店舗内BGM ● 映画館での上映、等 	<ul style="list-style-type: none"> ● CDの複製、等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歌詞集の印刷 ● 楽譜の印刷、等 	<ul style="list-style-type: none"> ● CDレンタル
	⑤ 映画への録音		
	⑥ ビデオグラム等への録音		
	⑦ ゲームへの録音		
	⑧ 広告目的で行う複製 <ul style="list-style-type: none"> ● テレビ/ラジオCMへの複製 ● インターネットCMへの複製 ● 広告印刷物への歌詞の複製、等 		
	⑨ 放送・有線放送	● テレビ/ラジオでの放送、等	
	⑩ インタラクティブ配信	● スマートフォン/パソコンへの配信、等	
	⑪ 業務用通信カラオケ	● カラオケ施設での歌唱のための複製、公衆送信、等	

演奏権等

コンサート・ライブでの演奏、店内放送、映画館等での映画上映など作品を演奏することを許諾する権利

録音権等

CDや 映画 DVD ゲーム CM等に作品を複製することを許諾する権利
利用形態毎に細分化し4つの利用形態に分けて管理しています

出版権等

楽譜や歌詞集・雑誌・書籍等に作品（歌詞・楽譜）を印刷することを許諾する権利

貸与権

CDレンタルにおいて作品を貸与することを許諾する権利

放送・有線放送

テレビやラジオ・有線放送において作品を利用することを許諾する権利

インタラクティブ配信

ネットワーク通信を通じて作品を利用することを許諾する権利
スマートフォンやパソコン向け音楽サービスなどが主な利用となります

業務用通信カラオケ

業務用通信カラオケ端末を通じて店舗や消費者に作品を送信することを許諾する権利

上記のうち、当社では「録音権等」「出版権等」「貸与権」の3つの支分権と、「映画への録音」「ビデオグラム等への録音」「ゲームへの録音」「広告目的で行う複製」「放送・有線放送」「インタラクティブ配信」「業務用通信カラオケ」の7つの利用形態の管理を行なっています。

「演奏権等」については、営業体制・管理体制などの環境が整い次第管理業務を開始する予定ですが、現時点ではその具体的な開始時期は未定です。

著作権を保有する著作権者は、自ら著作権の管理方法を選択する権利を保有していますが、効率や徴収精度の高さから、音楽分野においては著作権管理事業者に作品を登録・管理することが一般的となっています。

また、利用者からの視点で見ても、使用する都度、数多くの著作権者から使用許諾を得ることは、大変困難な作業であり、著作権管理事業者が集中して著作物を管理することにより、定められた手続きと支払いを行いさえすれば自由に作品を利用できる環境が整っています。当社は、音楽作品の管理・利用に関するルールや使用料を定めた上で、著作権者からの委任に基づいて、利用者への許諾の取次と使用料の徴収を行い、音楽作品の円滑な利用を促進する窓口としての役割を果たしております。

（主な会社）当社、株式会社エムシージェイピー

著作権等管理事業（デジタルコンテンツディストリビューション業務）

音楽コンテンツ（音源や映像）を国内外の音楽配信サービスへ販売・流通（コンテンツディストリビューション）する事業を行っております。著作物（作品）を録音・編集した音源マスターを音楽業界では原盤と呼ばれていますが、この原盤を権利者からライセンスし、販売先の音楽配信サービスを通してユーザーに音楽を届ける事業です。2003年より国内でいち早く事業を開始しました。音楽コンテンツを保有するレコードメーカーや音楽プロダクション、音楽出版社、アニメ・ゲームメーカーなどの権利者との契約を保有し、今では国内屈指のデジタルディストリビューターとして、音楽配信市場に特化した多くのノウハウを蓄積しております。

当社が著作権を管理する作品が含まれる原盤をより多くのユーザーに販売することで、原盤の使用料が多く発生するのはもちろんのこと、同時に著作権使用料も発生しますので、自らコンテンツ流通プラットフォームを構築し販売を促進することによって、著作権使用料の増大にも寄与しております。

（主な会社）当社

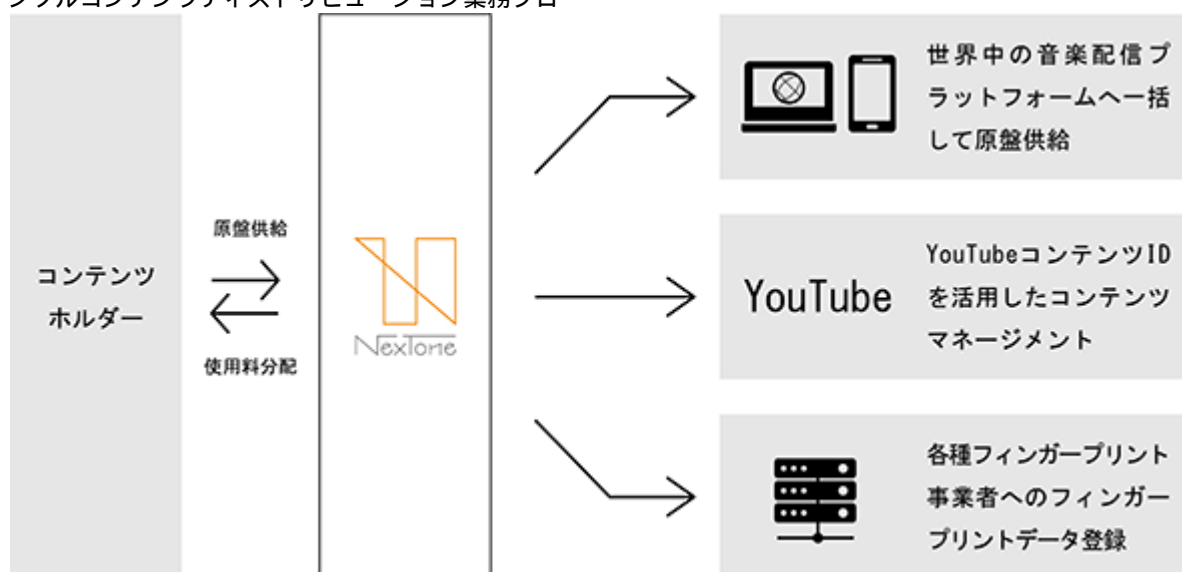
<特徴>

- ・あらゆる配信種別（ストリーミング、ハイレゾなど）に向けて、スピーディーに対応しています。
- ・売上の最大化に向けて不可欠な「海外配信」においても、効率的なネットワークを構築しています。
- ・独自の原盤管理システムの稼働により、安全な配信運用および確実かつ詳細な分配と明細データの提供を実現しています。
- ・YouTubeにおけるコンテンツマネジメントサービス()も提供しております。

()YouTubeにおけるコンテンツマネジメントサービスについて

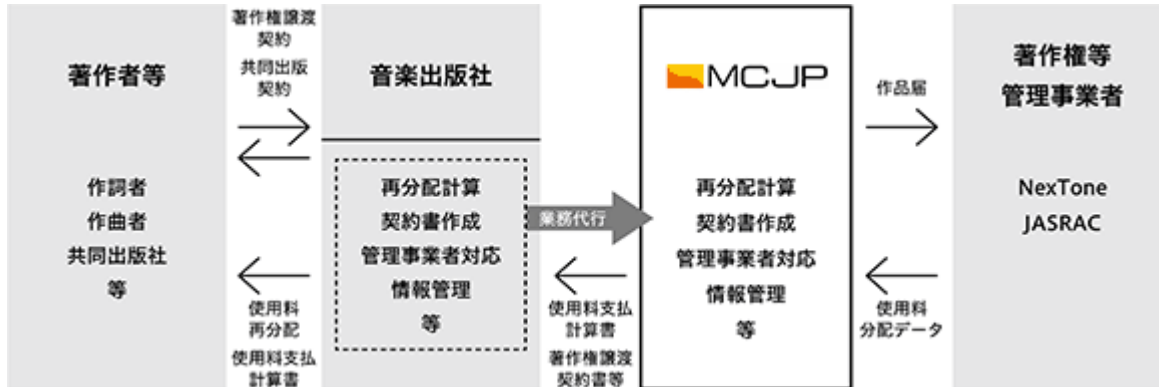
従来のYouTubeオフィシャルページにおける動画広告収益の一部を受領するビジネスモデルに加え、権利者が保有するオリジナル動画や音楽原盤をNexToneを通じてYouTubeシステムに登録する事により、それらのコンテンツを使用して作成・投稿された「UGC」（ユーザー投稿動画）からも広告収益の分配を受ける事が可能です。

デジタルコンテンツディストリビューション業務フロー



また、子会社のエムシージェイピーにおいて行っている音楽出版社向け業務代行サービスについては、再分配計算、著作権譲渡契約書・作品届の作成などの音楽出版社の管理業務を代行することによって、著作権管理事業におけるクライアントである音楽出版社の皆さまの業務負担の軽減と効率化を図っており、当社のグループ会社として培われたノウハウにより、最適な著作権管理方法のご提案とサポートを行っております。

エムシージェイピーの音楽出版社向け業務代行サービス業務フロー



キャスティング事業

キャスティング・コンサルティングとして、アーティスト稼働やライブへのユーザー招待、楽曲タイアップ等に関わる様々な音楽コンテンツの権利処理を行い、企業キャンペーンや各サービスでの音楽コンテンツを中心に利用促進をコーディネートしております。またODSサポート()として、映画館での同時生中継(ライブビューイング)の実績も豊富で、アーティストライブに限らずミュージカルやプロスポーツの試合など、多分野のコンテンツを取り扱っております。その他、ドキュメンタリー映画や劇映画の配給・宣伝業務、映画館を利用したイベントコーディネートなども手がけております。

レコード会社やメディア企業、配信プラットフォームなど、様々な企業と共同で新たなエンタテインメントサービスの開発に積極的にチャレンジするなど、多岐にわたってエンタテインメントビジネスをサポートしております。

(主な会社) 当社

キャスティング業務フロー



() 非映画デジタルコンテンツ (Other Digital Stuff) の支援

2019年ライブビューイング実績例

 音楽	+	 ミュージカル	 スポーツ
			
B'z ライブビューイング史上最大 305劇場 で上映 8万人 を動員 (2019年11月現在)		©ミュージカル「刀剣乱舞」製作委員会 ミュージカル『刀剣乱舞』 紅白出場 実績のある 2.5次元人気コンテンツを シリーズを通して上映	プロ野球球団の シーズン公式戦を ライブビューイング上映

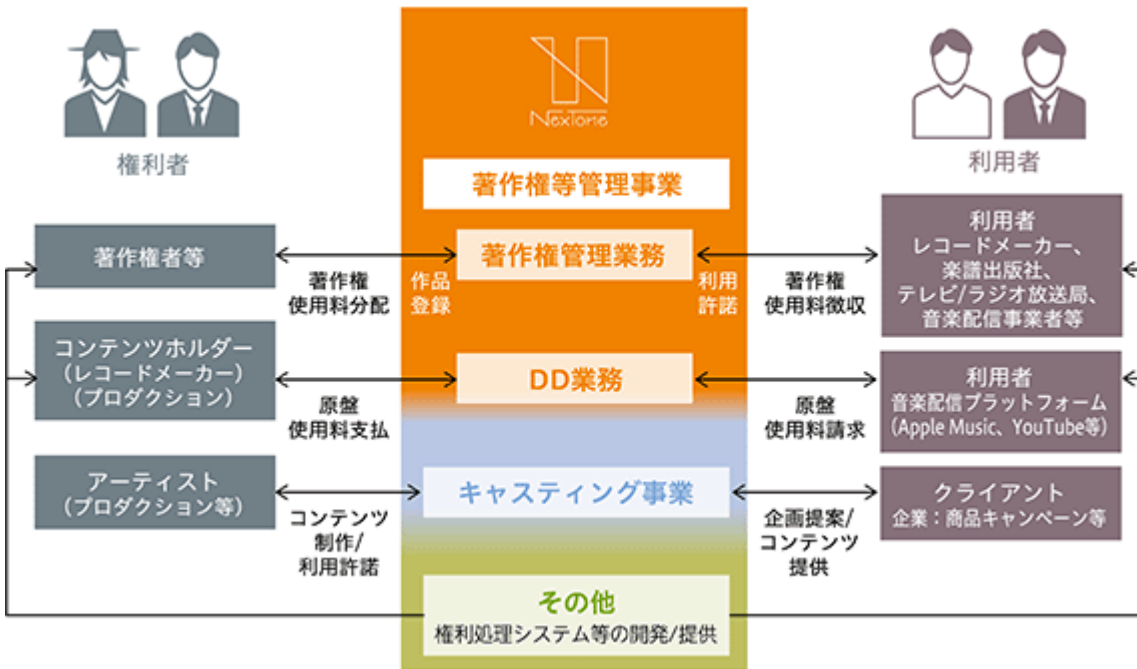
その他

当社グループの業務ノウハウやコンテンツ配信ビジネスへの知見を活かした、音楽・映像などエンタテインメント業界のコンテンツビジネスに関するコンテンツ並びに印税契約管理、及び許諾・配信管理、印税計算や関係権利者への分配などのバックエンド業務に特化したシステム開発などを行っております。日々の膨大かつ複雑な著作権利用に係るデータや情報のシステム管理能力、手数料徴収及び権利者への分配金支払いの膨大な実務能力が必要であることから、新たなシステムの開発は常に求められている状況です。

具体的には、著作権・原盤権等の権利処理システムの開発・提供、コンテンツ配信関連のシステム開発・提供及び各種社内システムの開発・運用などを行っております。

(主な会社)当社、株式会社NexToneシステムズ

事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

2020年3月31日現在

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社エムシージェイピー	東京都渋谷区	10,000	著作権等管理 事業	100.0	管理業務受託に伴う 経営指導料の受領等 著作権管理委託契約 を締結 役員の兼任等...有 (取締役1名、監査 役1名)
株式会社NexToneシステムズ	東京都渋谷区	10,000	その他	100.0	著作権管理システム の開発、及び運用の 委託、 DD管理システムの サービス利用、 管理業務受託に伴う 経営指導料の受領等 役員の兼任等...有 (取締役1名、監査 役1名)

- (注) 1. 連結子会社の「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。
2. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
著作権等管理事業	37 (4)
キャストイング事業	4 (-)
その他	22 (-)
合計	63 (4)

- (注) 1. 従業員数は就業人員数(契約社員を含む。)であります。
 2. 臨時雇用者数(アルバイトを含む。)は最近1年間の平均人数を()外数で記載しております。
 3. その他に記載されている従業員数は、特定の事業セグメントに区分できない部門及び管理部門に所属しているものであります。
 4. 子会社の従業員はすべて当社からの出向者で構成されているため、連結会社の状況と提出会社の状況における従業員数は一致しております。

(2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
63 (4)	36.1	5.8	5,050

セグメントの名称	従業員数(名)
著作権等管理事業	37 (4)
キャストイング事業	4 (-)
その他	22 (-)
合計	63 (4)

- (注) 1. 従業員数は就業人員数(契約社員を含む。)であります。
 2. 臨時雇用者数(アルバイトを含む。)は最近1年間の平均人数を()外数で記載しております。
 3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 4. その他に記載されている従業員数は、特定の事業セグメントに区分できない部門及び管理部門に所属している者であります。

(3) 労働組合の状況

当社グループにおいて労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、提出日現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、経営理念である「権利者に選ばれ、利用者から支持される著作権管理事業者となる」ことを目指し、公平・公正かつ透明性の高い著作権使用料の徴収・分配を行うこと、著作物利用に対し迅速かつ柔軟に対応すること、最新のテクノロジーを活用した効率的な管理・運営によりコストを削減することなどを心掛けております。

(2) 目標とする経営指標

当社グループが重視している経営指標は、取扱高()であります。取扱高は、著作権等管理事業やDD業務等の徴収額を示し、市場シェアや会社の成長性を見るために有効な指標であることが当該指標を重視している理由であり、取扱高のさらなる拡大を経営目標としております。

取扱高とは、著作権管理事業においては音楽著作権の利用者から徴収した金額(権利者へ分配する金額と当社の管理手数料からなります)を示し、著作権管理事業以外の事業では、取引先に対して役務提供の対価として請求を行った金額を示しております。

取扱高と売上高の関係に関して、著作権管理事業では取扱高から当社の管理手数料を差し引いた金額を権利者へ分配しており、当社は管理手数料部分を売上高として計上しております。他方で、著作権管理事業以外の事業においては、取引先への請求金額を取扱高として認識しており、原則として取扱高をもって売上高として計上しております。

(3) 経営環境及び中長期的な会社の経営戦略

現在の音楽市場の事業環境は、一般社団法人日本レコード協会の調べによりますと、音楽ソフト(音楽ビデオ含む)の生産金額が前年比95%(2019年1月~12月)と減少し、また、有料音楽配信売上実績では、前年比110%(2019年1月~12月)と6年連続の増加となりました。

このような状況を踏まえ、当社グループでは、経営理念である「権利者に選ばれ、利用者から支持される著作権管理事業者となる」の下、次代を奏でる著作権エージェントとなることを目指して、以下のような経営方針を定めております。

新しい時代の著作権エージェントとして、音楽文化の発展に貢献する。

公平・公正かつ透明性の高い著作権使用料の徴収・分配を行う。

著作物利用に対して迅速かつ柔軟に対応する。

グループ事業のシナジー効果による権利者・利用者へのサービスを追求する。

(著作権等管理事業を核として、デジタルコンテンツディストリビューション業務、キャストインギ事業、音楽出版業務、システム関連業務等の様々なサービスの提供に取り組む。)

最新のテクノロジーを活用した効率的な管理・運営によりコスト削減する。

これらの経営方針に沿って、以下のとおり事業計画の基本方針を定めております。

取扱高のさらなる拡大のための施策を立案・実行する。

著作権管理事業を中心に事業連携、シナジー効果を徹底する。

全ての事業において権利者・利用者のニーズに対応する。

権利者の利益を追求し、時代を先読みした更なるサービスを確立する。

事業計画における各事業セグメントの基本戦略は以下のとおりです。

著作権等管理事業（著作権管理業務）

著作権者等のニーズが多様化している中で、プロモーション目的での楽曲利用については、権利者の意向が反映しやすい規定・運用を行うことを心掛けながら、著作権使用料をより多く分配する為の環境を整備していきます。

また、音楽出版社の業務代行等をはじめとする各種サービスの提供によって、著作物の効率的な管理サポートを行いながら楽曲コンテンツの利用促進を目指します。

著作権等管理事業（デジタルコンテンツディストリビューション業務）

ストリーミング配信許諾の促進による原盤使用料売上の拡大を目指すとともに、業務範囲を拡大し、権利者・利用者向けサービスの拡充によって当社独自のメリットを構築します。

キャストینگ事業

既存大口取引先との連携を強化しつつ、中長期的な視点で収益に寄与する新規コンテンツの獲得、新規事業の開拓に注力します。

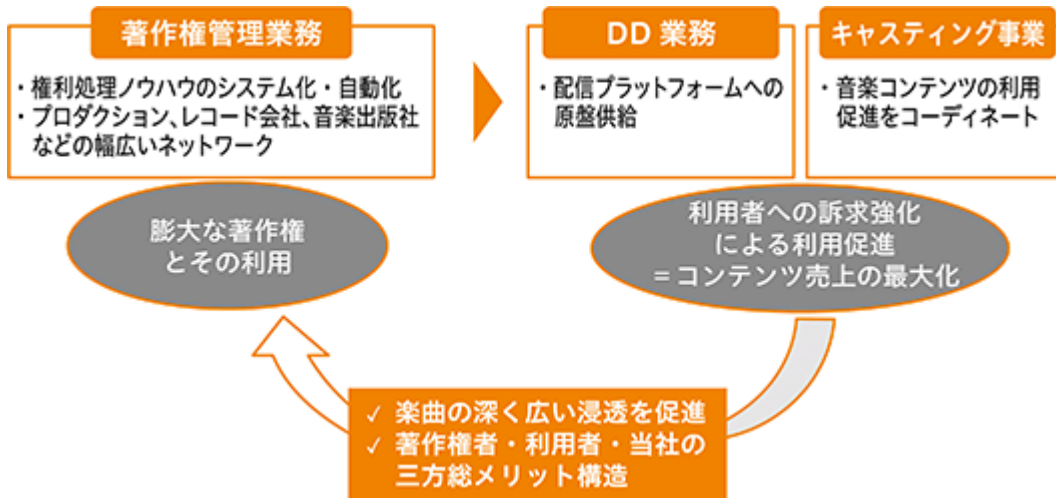
さらに、中長期的な成長戦略は以下のとおりです。

当面は、著作権等管理事業が着実に成長曲線を描くように経営資源を投入し、中長期的には「演奏権」を含め、全支分権・利用形態への早期参入と海外徴収の実現を目指します。

また、当社の強みであり他の音楽著作権管理事業者に無いデジタルコンテンツディストリビューション事業、キャストینگ事業、音楽出版事業、システム関連事業、更には現事業から発展してこれから生まれる各種事業を含めた音楽権利ビジネスに係るあらゆるサービスを提供する著作権エージェントとなることを目指して参ります。

利用促進のプロモーター

- ・ 楽曲の利用状況データは利用促進への重要なアセットとしても活用
- ・ データを活用した配信プラットフォームへの原盤供給（DD）やカスティングにより、楽曲の浸透速度を加速
- ・ 著作権の管理のみならず、利用促進まで手がけ「権利者に選ばれ、利用者から支持される」経営理念実現へ



具体的な展開例



(4)事業上及び財務上の対処すべき課題

著作権管理業務における業務効率化とサービス向上への取り組み

順調に推移している委託者数・作品数に対応するべく、業務効率化の向上を目指し、引き続き作業プロセスの見直し及びシステム開発を進めて参ります。RPAの導入により業務の自動化を推進し、システム開発においても、既存の概念や技術にとらわれない新たな発想で、開発・研究を進めて参ります。また、新たなデータベース構築にも着手し、外部システム・データとの連携に取り組むとともに、分配ロジックの見直し等を行うことにより、更なる分配精度や透明性の向上に努めて参ります。

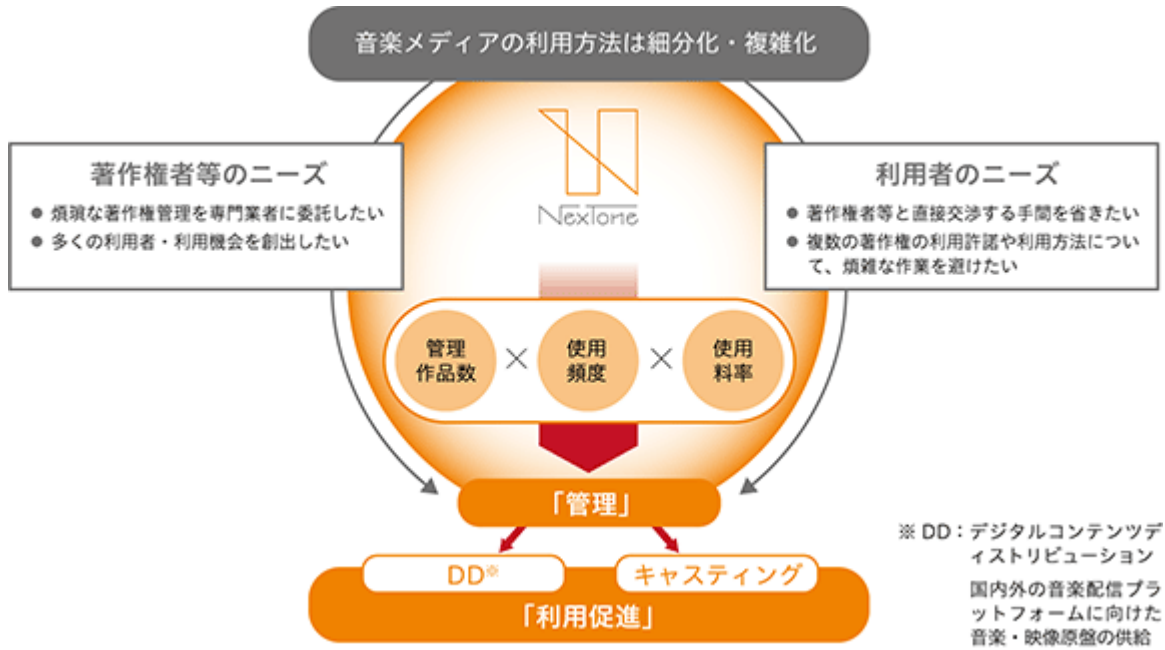
・分配金管理システムの高い透明性



ソリューション型営業による取引拡大

サブスクリプション型配信サービス()や動画配信サービスの拡大、SNSでの音楽利用等、音楽を取り巻く環境は大きく変貌しており、権利者ニーズにもより一層の細分化・多様化の傾向が見受けられます。当社が展開する著作権管理業務・デジタルコンテンツディストリビューション業務・キャストインギ事業・音楽出版業務・システム事業を複合的に組み合わせることにより、権利者の潜在的なニーズを掘り起こし、作品・コンテンツの獲得に注力して参ります。また、作品、コンテンツの利用促進を図りながら、権利者へのマーケティングデータの提供や新規事業の開発にも引き続き注力し、当社サービスの付加価値向上に努めて参ります。

()サブスクリプション型音楽配信サービス...毎月一定額の利用料を音楽配信サービスの運営会社に支払い、インターネット上のサーバーに登録されている楽曲を無制限に聴くことができるサービス。定額制音楽配信サービスともよばれる。



海外地域徴収並びに海外事業者と連携した権利処理サービスの提案

コンテンツ・ビジネスのボーダレス化により、海外利用に対応した従来型の管理とは異なる管理体制が権利者より求められています。また、ネット利用など未徴収となっている領域が大きく存在します。今後は日本の楽曲に対する注目度の向上、ネットによるグローバル化の進展から、海外徴収領域はより重要になると考えられ、市場規模は決して小さくなく、将来的には拡大していく可能性が十分にあると考えるとともに、権利者からの海外利用に対する徴収ニーズは強くなっています。そのため、当社としてはグローバルに展開する配信事業者を対象に世界同一条件を前提とした直接許諾契約（マルチテリトリアル・ライセンシング）を検討（既に一部の利用者とはインタラクティブ配信において、当該契約を開始）し、海外地域利用分の直接徴収による早期かつ明解な分配に向けてチャレンジするとともに、これら以外については、海外著作権団体との徴収代行契約の締結を目指して海外サポート体制の強化を図って参ります。

演奏権管理への進出

当社設立以来の重要課題である演奏権管理への進出を目的として、昨年4月にプロジェクトを発足し、実現に向けた検討を開始いたしました。演奏権は、権利者・利用者双方から当社による管理を期待されている支分権であり、現在の音楽著作権市場の約20%を構成し、今後更なる伸長が見込まれる分野でもあります。最新のテクノロジーを駆使し、権利者・利用者団体らのご理解ご協力を得ながら、可及的速やかに参入し、著作権エージェントとしてフルラインサービス体制を目指して参ります。

また、各種の利用実績確認など、これまで以上に巨大なシステムデータの解析・処理が必要となる業務領域については、AI（人工知能）等の最新技術を活用した品質向上施策の研究、並びに対応を図って参ります。

NexToneグループの各種業務並びにサービスを支えるシステム整備

ビジネス・プロセスのシステム化による「安定的な業務品質の担保」を至上命題としつつ、様々なデータ活用による業務効率化やコスト低減、更には営業施策としてのシステム活用など多方面にわたりシステム観点からのアプローチも継続して参ります。

内部管理体制の強化

当社グループは、内部管理体制の強化を経営上の重要課題の一つとして認識しており、グループ各社との連携のもと、内部統制機能の一層の充実とガバナンス体制の確立に努め、リスク管理の徹底を図ることで、株主の皆様をはじめ各ステークホルダーの皆様との良好な信頼関係を保ちながら、社会的責任を果たして参ります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績及び財政状態等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあります。また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資家の投資判断において重要であると考えられる事項については積極的に開示しております。

当社グループは、これらのリスクの発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ではありますが、本株式に関する投資判断は、以下の記載事項及び本項目以外の記載事項を、慎重に検討したうえで行われる必要があると考えられます。

なお、文中の将来に関する事項は、提出日現在において当社が判断したものであり、将来において発生の可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。

1．事業内容について

(1) 「演奏権等」の管理業務参入に関するリスクについて

当社グループでは著作権に関する4つの支分権のうち「演奏権等」を除く「録音権等」「出版権等」「貸与権」の3つの支分権と、「映画への録音」「ビデオグラム等への録音」「ゲームへの録音」「広告目的で行う複製」「放送・有線放送」「インタラクティブ配信」「業務用通信カラオケ」の7つの利用形態の著作権の管理を行っています。

「演奏権等」については、環境が整い次第、管理業務を開始する予定ですが、現時点ではその具体的な開始時期は未定であり、業務開始に伴う様々なコストの発生が、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに影響を及ぼす可能性があります。

音楽著作権の4つの支分権（～）と7つの利用形態（～）の概念図

① 演奏権等	② 録音権等	③ 出版権等	④ 貸与権
<ul style="list-style-type: none"> ● コンサートでの演奏 ● カラオケ ● 店舗内BGM ● 映画館での上映、等 	<ul style="list-style-type: none"> ● CDの複製、等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歌詞集の印刷 ● 楽譜の印刷、等 	<ul style="list-style-type: none"> ● CDレンタル
	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 映画への録音 ⑥ ビデオグラム等への録音 ⑦ ゲームへの録音 		
	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 広告目的で行う複製 <ul style="list-style-type: none"> ● テレビ/ラジオCMへの複製 ● インターネットCMへの複製 ● 広告印刷物への歌詞の複製、等 		
	<ul style="list-style-type: none"> ⑨ 放送・有線放送 <ul style="list-style-type: none"> ● テレビ/ラジオでの放送、等 		
	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ インタラクティブ配信 <ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォン/パソコンへの配信、等 		
	<ul style="list-style-type: none"> ⑪ 業務用通信カラオケ <ul style="list-style-type: none"> ● カラオケ施設での歌唱のための複製、公衆送信、等 		

(2) 「著作権等管理事業」に関するリスクについて

当社グループの主力事業である「著作権等管理事業」は、著作権者との委任契約に基づき、利用者に提供しております。よって、大口著作権者が、他社サービスへの移管等の理由により当社グループとの契約を終了させた場合、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに影響を及ぼす可能性があります。

(3) 「著作権等管理事業」の市場構造に関するリスクについて

当社グループの中核をなす音楽著作権管理事業の市場規模は、過去10年以上、年間の「著作権使用料徴収額」が1,100億円前後で推移しております。当該市場は、2001年10月に「著作権等管理事業法」が施行され、広く民間に著作権管理業務に関する門戸が開放されましたが、現在に至るまでJASRACの寡占状態が続いております。

当社グループといたしましては、同事業領域において、デジタルコンテンツディストリビューション（DD）業務などを推進し、さらなる差別化戦略の遂行を通じて、著作権の管理のみならず、利用者への訴求強化による利用促進を図ることで「権利者に選ばれ、利用者から支持される著作権管理事業者となる」という経営理念を実現し、業界のポジションを確固たるものとしてまいります。

しかしながら、今後景気の悪化や、業界のコスト構造の変化等により、当社グループが属する市場の規模が想定したほど拡大しない場合、あるいは、当社グループの差別化戦略が奏功せず、業界ポジションの確立につながらなかった場合には、当社グループの経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(4) 特定取引先への依存度が高いことについて

当社グループの主力事業である「著作権等管理事業（著作権管理業務）」の管理作品の11.1%は、当社のその他の関係会社に該当するエイベックス・グループの管理作品が占めております。

今後もエイベックス・グループとの良好な取引関係は継続してまいります。管理委託者の多様化を推進することにより、エイベックス・グループへの依存度を低減させるよう努めてまいります。

「著作権等管理事業（デジタルコンテンツディストリビューション業務）」においては、売上高の23.5%をiTunes社、13.0%をGoogle社が占めておりますが、同社の取引比率が高いことは当社固有の事情によるものではなく、同社が国内外の音楽配信市場において高いシェアを誇る配信事業者であることが要因となります。同社サービスにヒットコンテンツ、有名コンテンツを安定的に供給することによって、取引額の拡大を図り継続的な取引を指向してまいります。

なお、上記記載の比率（%）は、いずれも当連結会計年度末時点のものとなります。

(5) システムリスクについて

当社グループの事業は、コンピュータシステム及びインターネットを活用しており、何らかの原因による当社サーバー等への一時的な過負荷や外部からの不正な手段によるサーバーへの侵入、役職員の過誤によるシステム障害が発生する可能性があります。これらの障害が発生した場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 知的財産権に関するリスクについて

現時点において当社は、第三者の知的財産権の侵害は存在していないと認識しておりますが、今後も知的財産権の侵害を理由とする訴訟やクレームが提起されないという保証はなく、そのような事態が発生した場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(7) 減損に関するリスクについて

当社グループは著作権等管理事業において、効率的かつ精度の高い分配業務を実現するために、システムへの投資を継続的に行っております。また、のれんに関しては、イーライセンスとJRCが合併・事業統合し当社が設立された際に計上しております。

これらのソフトウェア及びのれんは、無形固定資産に計上しておりますが、これらの資産における十分な将来キャッシュ・フロー創出能力を1年に1回判定し、減損の兆候の有無を把握しております。もし、減損の兆候が認められた場合は、減損の認識の必要性に関して詳細な減損テストを実施いたします。

著作権等管理事業において、十分な将来キャッシュ・フローが見込めない場合は、減損損失を計上する可能性があります。この場合、当社グループの業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(8) 新型コロナウイルス感染症の影響に関するリスクについて

キャストینگ事業においては、ライブ・コンサート・イベントの自粛・延期・中止の影響が、また、著作権等管理事業においては、店舗営業自粛により「CD/映像ソフト」「業務用通信カラオケ」「CDレンタル」における著作権使用料徴収額が少なからず影響を受ける可能性があります。一方、音楽配信分野においては、巣ごもり需要もあり順調に推移しておりますので、当社事業全体に対する影響は、ほぼないものと予測しております。今後も引き続き音楽関連市場の動向に留意してまいります。

また、当社ではリモートワークを実施しましたが、通常業務体制からの移行は順調に進行いたしましたので、リモートワークが業績に与えるマイナス影響はありません。

2. 事業体制について

(1) 特定の人物（代表取締役等）への依存について

当社の代表取締役である阿南雅浩及び荒川祐二は、2016年2月の当社発足以前から、当社の主要事業である音楽著作権管理に関する業務に携わっており、当該事業に関する豊富な経験と知識を有しております。

現在、両名は当社の経営方針や事業戦略の決定及びその遂行において重要な役割を担っており、両名もしくはそのいずれかが突発的に当社グループの事業へ関与できない状況が発生した場合、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

しかしながら、当社グループの事業規模が拡大するとともに、権限移譲と後進の育成が順調に進められており、両名に過度に依存しない経営体制が整備されつつあります。そのため、将来的に上記の状況が発生した場合においても、当社グループの事業及び業績に影響を及ぼす可能性は限定的なものとするべく、事業体制、経営体制の強化を図ってまいります。

(2) 内部管理体制について

当社は、企業価値を最大化すべく、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要課題の一つと位置付け、多様な施策を実施しております。また、業務の適正の確保及び財務報告の信頼性を確保するため、これらに係る内部統制が有効に機能するよう、内部管理体制を構築、整備、運用しております。

しかしながら、事業規模の拡大に応じた内部管理体制の構築に遅れが生じた場合には、当社の事業及び業績に何らかの影響を与える可能性があります。

(3) 情報セキュリティについて

当社は、第三者による当社サーバー等への侵入に対して、ファイアウォールや対策機器等による体系的な対応を行うほか、当社グループ全体の情報システムを司る子会社である株式会社NexToneシステムズにおいては、ISMS (ISO27001)認証を取得し、専門のエンジニアによる情報セキュリティ対策の強化を推進しております。

しかしながら、悪意をもった第三者の攻撃等により顧客情報及び顧客の有する重要な情報を不正に入手されるといった機密性が脅かされる可能性や、顧客が利用するサービスの改ざん等のデータの完全性が脅かされる可能性及びサービス自体が提供できなくなる等のシステムの可用性が脅かされる可能性は否定できません。このような事態が生じた場合には、当社に対する法的責任の発生、企業イメージの悪化等により、当社の事業及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) システムトラブルについて

当社の事業においては、安定したサービスを継続的に提供する必要がありますが、当社のサービスは、プログラム、システム及び通信ネットワークに依存しております。

ユーザーに、より良いサービスを提供するため、データベースの稼働率を高水準で維持し、サービスのシステム監視体制やバックアップ等の対応策をとっておりますが、災害や事故等の発生により通信ネットワークが切断された場合、急激なアクセスの増大によりサービスの稼働するサーバーが一時的に作動不能となった場合及びサーバーハードウェアに不具合が発生した場合には、安定したサービスが提供できなくなる可能性があります。

この場合、一定期間の収益低下、ユーザーからの信用低下及びブランドイメージの毀損等により、当社の事業及び業績に影響を与える可能性があります。

(5) 大規模災害や事故等の発生に伴う影響やシステム障害に伴う影響について

当社グループでは、自然災害、事故等に備え、システムの定期的バックアップ、稼働状況の常時監視等によりトラブルの事前防止、回避等に努めておりますが、当社所在地近辺において、大地震等の自然災害や事故等が発生した場合、当社グループの設備損壊や電力供給の制限等の事業継続に支障をきたす事象が発生して、当社グループの経営成績及び収益性に影響が生じる可能性があります。

(6) 個人情報漏洩による損害賠償リスクについて

当社グループでは、著作権管理業務を行う上で、著作権者及び音楽利用者の個人情報を取り扱う場合があります。そのため、当社では、個人情報の取扱いを社内規程に定めるとともに、社員研修の実施等により、セキュリティへの意識の喚起や情報リテラシーの向上に努めております。しかしながら、個人情報の流出が発生する可能性は否定できないため、万が一、個人情報の流出といった事故が発生した際には、損害賠償請求訴訟等によって、当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに大きな影響を及ぼす可能性があります。

(7) 法的規制について

当社グループが事業を展開するにあたり、主に「著作権等管理事業法」、「著作権法」、「著作権法施行令」、「特定電子メールの送信の適正化等に関する法律」及び「個人情報の保護に関する法律」等の規制対象となります。

特に当社グループの主要事業である「著作権等管理事業」を展開するにあたり、その前提となるのは「著作権等管理事業法」であり、著作権等管理事業者としての届出を文化庁長官に対して行っております（2001年10月11日登録・登録番号01005）。当該登録は、「著作権等管理事業法」に定める民間管理事業者として著作権の管理等を行うためのものであり、満了日に関する定めはありませんが、以下のとおり登録者としての義務が定められております。

対委託者 管理委託契約約款の説明、管理委託契約約款の公示、財務諸表等の備え付け等

対利用者 使用料既定の公示、利用の許諾の拒否の制限、情報の提供

対文化庁長官 各種届出（事業の変更・廃業等、管理委託契約約款、使用料規程）

当社グループでは、これらの法令を遵守して業務を行っており、事業の継続に支障を来たす要因は発生しておりません。しかしながら、これらの法令等が改正され規制が強化された場合、新たに当社の事業活動を規制する法令等が制定された場合、あるいは今後何らかの理由により、「著作権等管理事業法」第21条（登録の取消し等）に抵触し、著作権等管理事業者の登録が取り消しになった場合には、事業への制約や追加的な対応が生じることにより、当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローに重大な影響を及ぼす可能性があります。

(8) その他訴訟等による損害賠償責任に関するリスクについて

当社グループは、取引先、株主、従業員を含む第三者の権利・利益を侵害したとして、損害賠償などの訴訟を起こされ、または行政機関による調査等の対象となる可能性があります。その結果、当社グループの企業イメージが低下する可能性があるほか、金銭を含む経営資源に係る負担の発生等により、当社グループの事業展開、財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

3. その他のリスク

(1) 資金使途について（想定通りの投資効果が上げられない可能性及び、当初想定した使途と異なる目的で使用する可能性等）

当社の株式新規公開時に計画している公募増資による調達資金の使途につきましては、事業拡大に伴い増加する人件費等の運転資金及びシステム開発等の設備資金に充当する予定であります。しかしながら、経営環境の急激な変化等により、上記の資金使途へ予定どおり資金を投入したとしても、想定どおりの投資効果を上げられない可能性があります。

また、今後の事業環境の変化や、当社事業戦略等の変更等により、将来において調達資金にかかる資金使途に変更が生じる可能性があります。

(2) 新株予約権の行使による株式価値の希薄化について

当社では、取締役及び従業員等に対するインセンティブを目的としたストック・オプション制度を採用しており、本書提出日現在における新株予約権による潜在株式数は262,600株であり、発行済株式総数3,079,000株の8.5%に相当いたします。

また、今後においてもストック・オプション制度を採用する可能性があり、現在付与している新株予約権に加え、今後付与される新株予約権について行使が行われた場合には、保有株式の価値が希薄化する可能性があります。

(3) 配当政策について

当社は、設立以来配当を行っておりませんが、株主に対する利益還元を重要な経営課題として認識しており、企業体質の強化と将来の事業展開のために内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的に業績の成長に見合った成果を配当することを基本方針としております。

したがって、各期の経営成績及び財政状態等を勘案しながら、将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、利益還元の実施について検討してまいります。現時点において配当実施の可能性及びその実施時期等につきましては未定であります。

(4) 主要株主との関係について

エイベックス株式会社（以下「エイベックス」）の100%子会社であるエイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社（以下「AMP」）が当社の発行済株式の14.95%を保有しており、エイベックスは当社の「主要株主」に該当いたします。

当社グループとエイベックス・グループとの関係については、今後も社外監査役1名の兼務は継続し、「著作権等管理事業」等における良好な取引関係は継続していく予定ですが、今後エイベックスの経営方針やグループ戦略が変更された場合等、何らかの理由により当社との関係が将来において変化した場合、当社の経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という）の状況の概要は、以下のとおりであります。

財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における我が国経済は、企業業績や雇用情勢の改善が続き、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。当社を取り巻く音楽市場の事業環境は、一般社団法人日本レコード協会の調べによりますと、音楽ソフト（音楽ビデオ含む）の生産金額が前年比95%（2019年1月～12月）と減少し、また、有料音楽配信売上実績では、前年比110%と6年連続の増加（2019年1月～12月）となりました。

このような情勢において、当社グループは、「権利者に選ばれ、利用者から支持される著作権管理事業者となる。」という経営理念の下、営業活動の強化による新規取引先の獲得、既存取引先における取引範囲拡大による取引金額の増加、著作権等管理事業のシステム化促進による業務の効率化・安定化に取り組んでまいりました。また、当社が展開する「著作権管理業務」「デジタルコンテンツディストリビューション業務」「キャスティング事業」の各部門間での情報共有・営業連携を加速させ、経営統合のシナジー効果を発揮することにより、持続的な成長を目指してまいりました。

加えて、皆様方のご支援により、2020年3月30日に東京証券取引所マザーズ市場に上場いたしました。

なお、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大による、当期の業績への大きな影響はありません。

その結果、取扱高は9,479,066千円（前年同期比127.4%）と過去最高を記録し、売上高は4,345,481千円（前年同期比134.1%）、営業利益は305,665千円（前年同期比167.5%）、親会社株主に帰属する当期純利益は191,488千円（前年同期比147.8%）と大幅な増収増益となりました。

セグメント別の実績は以下の通りであります。

a. 著作権等管理事業

当連結会計年度において、当社は45権利者との管理委託契約を締結いたしました。また、既存権利者からの作品登録も順調に進み、録音権徴収額は前年度比103.1%となりました。インタラクティブ配信徴収額は、サブスクリプション型配信サービスの拡大や動画投稿サービスにおける作品特定精度の向上等が寄与し前年度比153.8%、放送・有線放送徴収額は、作品の増加とレギュラー番組での利用作品の獲得が奏功し前年度比138.5%、出版権徴収額は、映画関連のヒット作品や他管理事業者からの管理移管作品の影響により前年度比174.9%の大幅増収となりました。その結果、著作権徴収額全体で前年度比124.7%の過去最高徴収額を記録し、8期連続の増収となりました。

また、42権利者においては、他管理事業者からの過去作品9,399作品（うち、新規移管による純増4,013作品、委託範囲拡大5,386作品）の移管を実施いたしました。これらの作品は、2020年4月より新たに当社で管理する、または、管理範囲を拡大するものであり、2021年3月期業績のプラス要因となることが見込まれます。

	2020年3月期
管理作品数（曲）	167,538
期中新規作品数（曲）	35,241

デジタルコンテンツディストリビューション業務につきましては、取扱原盤の増加に加え、音楽配信サービス事業者と連携したプロモーション施策の実施や、ストリーミング市場の伸長、動画投稿サービスにおける収益化業務の促進などが奏功し、原盤配信売上高は前年度比153.2%の大幅増収となりました。

	2020年3月期
取扱原盤数	626,459
期中新規原盤数	121,520

これらの結果、売上高は3,782,230千円（前年同期比145.5%）、セグメント利益は688,561千円（前年同期比136.2%）となりました。

b. キャスティング事業

主軸であるライブビューイング事業において、大型コンテンツの集客が好調であり、また、新規コンテンツの獲

得も進んだものの、コーディネート事業における取引先サービス内容の見直しによる案件数の減少が影響し、売上高は459,947千円（前年同期比94.3%）、セグメント利益は36,683千円（前年同期比51.2%）となりました。

財政状態は、次のとおりであります。

(資産)

当連結会計年度末における総資産は、前連結会計年度末と比べ1,111,044千円増加し、4,246,891千円となりました。これは主に、現金及び預金の増加1,281,858千円、受取手形及び売掛金の減少265,354千円、前渡金の減少21,632千円によるものであります。

現金及び預金の増加は、著作権等管理業務における過去最高徴収額の更新による増収及びデジタルコンテンツディストリビューション業務の売上好調による増収、東京証券取引所マザーズ市場への上場に伴う資金調達によるものであります。

(負債)

当連結会計年度末における総負債は、前連結会計年度末と比べ333,854千円増加し、2,126,069千円となりました。これは主に未払金の増加302,572千円、未払法人税等の増加71,513千円、支払手形及び買掛金の減少60,102千円によるものであります。

未払金の増加は、著作権等管理業務における著作権徴収額の増加に対応し、権利者への分配額が増加したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産は、前連結会計年度末と比べ777,189千円増加し、2,120,821千円となりました。これは主に、資本金の増加293,250千円、資本剰余金の増加293,250千円、利益剰余金の増加197,504千円となったことによるものであります。

資本金及び資本剰余金の増加は、東京証券取引所マザーズ市場への上場による資金調達に伴うものであります。また、利益剰余金の増加は、業績好調により親会社株主に帰属する当期純利益が増加したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末と比較して1,281,858千円増加し、3,313,113千円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とその原因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、927,175千円（前連結会計年度は530,255千円）となりました。これは主に、売上債権の減少額264,533千円、未払金の増加額298,798千円が増加したことに加え、税金等調整前当期純利益304,296千円が計上されたことにより資金が増加したことによるものであります。

著作権等管理事業が好調に推移し、大幅に増収となったことが主たる要因ですが、著作権等管理業務においては、著作権使用料の入金を前提に権利者への分配を行うことから、著作権徴収額が増加傾向にある場合には、資金が積み上がるビジネスモデルとなっております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、231,816千円（前連結会計年度は86,912千円）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出5,443千円、無形固定資産の取得による支出115,807千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出88,054千円により資金が減少したことによるものであります。

無形固定資産の取得による支出は、主に著作権等管理事業において使用している著作権管理システム及び原盤管理システムへの継続的な開発投資を行っていることによるものであります。また、酷亜音楽股份有限公司（One Asia Music Inc.）に関して、保有株式の一部売却及び酷亜音楽股份有限公司（One Asia Music Inc.）による第三者割当増資に伴う持株比率低下により支配を喪失したため、同社、同社の子会社であるOne Asia Music Hong Kong Ltd.及び美子酷亜音尿（深圳）有限公司（One Asia Music(Shenzhen) Ltd.）を連結の範囲から除外したことにより、資金が減少しております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、586,500千円(前連結会計年度は 15,000千円)となりました。これは主に、東京証券取引所マザーズ市場への上場に伴う新株発行による収入586,500千円により資金が増加したことによるものであります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当社グループで行う事業は、提供するサービスの性格上、生産実績の記載になじまないため、当該記載を省略しております。

b. 受注実績

当社グループで行う事業は、提供するサービスの性格上、受注実績の記載になじまないため、当該記載を省略しております。

c. 販売実績

当連結会計年度における販売(売上)実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
著作権等管理事業	3,782,230	145.5
キャストイング事業	459,947	94.3
その他事業	103,303	67.5
合計	4,345,481	134.1

(注) 1. セグメント間取引については相殺消去しております。

2. 主な相手先別の売上実績及び当該売上実績の総売上実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	第19期連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		第20期連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
iTunes株式会社	735,259	22.7	1,023,219	23.5
Google株式会社	226,353	7.0	566,549	13.0

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。連結財務諸表の作成にあたり、資産及び負債又は損益の状況に影響を与える会計上の見積りは、過去の実績等の連結財務諸表作成時に入手可能な情報に基づき合理的に判断しておりますが、見積りの不確実性により、実際の結果がこれら見積りと異なる場合があります。

経営成績及び財政状態の分析

経営成績及び財政状態の分析内容については、「(1) 経営成績等の状況の概要」をご参照ください。

資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの財務政策は、安定的な運用を行うことを基本方針としております。

運転資金及び将来の事業拡大を目的にした投資資金の財源につきまして、自己資金を財源としております。

経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」の記載のとおりであります。

経営者の問題意識と今後の方針について

経営者の問題意識と今後の方針については、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」の記載のとおり認識しております。それらの課題に対応するため、経営者は常に市場ニーズや内部環境及び外部環境の変化に関する情報の入手及び分析を積極的に実施し、現在及び将来における内部環境及び外部環境を認識したうえで、当社グループの経営資源を最適に配分し、最適な解決策を実施していく方針であります。

4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、著作権管理システムの開発に関する投資を中心に実施しました。
なお、有形固定資産のほか、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は130,749千円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 著作権等管理事業

当連結会計年度の主な設備投資は、著作権管理システムの開発に関する総額61,332千円の投資を実施しました。
なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(2) キャスティング事業

当連結会計年度においては、該当事項はありません。
なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(3) その他

当連結会計年度の主な設備投資は、原盤管理システム等の開発に関する総額63,973千円の投資を実地しました。
なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

(4) 全社

当連結会計年度の主な設備投資は、提出会社において、本社オフィスの社内ネットワークの設備投資を中心として総額5,443千円の投資を実施しました。
なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

2020年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
			建物 及び構築物	工具、器具 及び備品	ソフトウェア	合計	
本社 (東京都 渋谷区)	著作権等管理 事業	著作権管理 システム	-	-	336,433	336,433	37
	キャストینگ 事業	-	-	-	-	4	
	全社	本社設備	8,221	12,796	494	21,512	22

- (注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。
 2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。
 3. 上記の他、連結会社以外から賃借している設備の内容は下記のとおりであります。

2020年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	賃借床面積 (㎡)	年間賃借料 (千円)
本社 (東京都渋谷区)	全社	本社事務所	581.73	55,079

(2) 国内子会社

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (千円)	既支払額 (千円)				
提出会社	本社（東京都 渋谷区）	著作権等管理事業	著作権管理システム PlayN	943,000	545,086	自己資金 及び増資資 金	2019年4月	2023年3月	(注) 2
提出会社	本社（東京都 渋谷区）	著作権等管理事業	DD事業専用システム	40,736	-	自己資金 及び増資資 金	2020年4月	2023年3月	(注) 2
提出会社	本社（東京都 渋谷区）	著作権等管理事業	DDマーケティング ツール開発	35,400	-	自己資金 及び増資資 金	2020年4月	2022年3月	(注) 2
提出会社	本社（東京都 渋谷区）	著作権等管理事業	放送ミュージックラ イブラリー	20,000	-	自己資金 及び増資資 金	2021年4月	2023年3月	(注) 2
提出会社	本社（東京都 渋谷区）	著作権等管理事業	AIマッチング技術研 究	28,000	-	自己資金 及び増資資 金	-	-	(注) 2
子会社	本社（東京都 渋谷区）	その他	原盤管理システムリ ブレイス	106,452	51,658	自己資金 及び増資資 金	2018年10月	2023年3月	(注) 2
子会社	本社（東京都 渋谷区）	その他	動画コンテンツ分配 システム	11,786	-	自己資金 及び増資資 金	2021年4月	2022年3月	(注) 2
提出会社	本社（東京都 渋谷区）	全社	基幹統合システム (ERP)	75,000	-	自己資金 及び増資資 金	2021年4月	2022年3月	(注) 2
提出会社	本社（東京都 渋谷区）	全社	プライムスクエアタ ワー8F、20F敷金	35,542	27,096	自己資金 及び増資資 金	-	-	(注) 2
提出会社	本社（東京都 渋谷区）	全社	プライムスクエアタ ワー8F、20F設備・ 什器	12,900	-	自己資金 及び増資資 金	-	-	(注) 2

(注) 1 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2 完成後の増加能力につきましては、合理的な算出が困難なため、記載しておりません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,000,000
計	10,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年6月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,079,000	3,079,000	東京証券取引所 マザーズ	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
計	3,079,000	3,079,000		

(注) 提出日現在の発行数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

第6回新株予約権（2010年6月25日 取締役会決議）

決議年月日	2010年6月25日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 2、当社従業員 6 (注) 1
新株予約権の数(個)	94 (注) 2
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 18,800 (注) 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	992 (注) 3
新株予約権の行使期間	2012年8月1日～2020年3月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 992 資本組入額 496
新株予約権の行使の条件	<p>新株予約権は、発行時に割当を受けた新株予約権者において、これを行使することを要する。</p> <p>新株予約権発行時において当社またはその関係会社の取締役または従業員であった者は、権利行使時においても当社またはその関係会社の役員または従業員であること。ただし、取締役会の承認がある場合にはこの限りではない。</p> <p>新株予約権発行時において社外の協力者であった者は、新株予約権行使時においても当社との間で業務委託契約を締結している、もしくは当社およびその子会社の役員または従業員であることを要する。</p> <p>新株予約権者が死亡した場合は、その相続人は当該権利を行使することができない。ただし、取締役会の承認がある場合にはこの限りではない。</p> <p>新株予約権の行使は、行使しようとする新株予約権または新株予約権者について「新株予約権の取得事由及び条件」に定める取得事由が発生していないことを条件とし、取得事由が生じた新株予約権の行使は認められないものとする。ただし、取締役会の決議により特に行使を認められた場合はこの限りではない。</p> <p>新株予約権の行使割合は、新株予約権割当契約書に定めるとおりとする。ただし、新株予約権の割当を受けた者から当該契約書に定められた割合を超える行使をしたい旨の申出があり、取締役会の承認がある場合にはこの限りではない。</p> <p>その他の条件については、当社の株主総会決議及び取締役会決議に基づき、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権の付与に関する契約に定めるところによる。</p>
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡はできないものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	-

当事業年度の末日（2020年3月31日）における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在（2020年5月31日）において、記載すべき内容が当事業年度の末日における内容から変更がないため、提出日の前月末現在に係る記載を書略しております。なお、本新株予約権は、2020年3月31日をもって権利行使期間が満了し、失効しております。

(注) 1. 付与対象者の区分及び人数は、付与日における区分及び人数を記載しております。付与対象者の退職等による権利の喪失により、本書提出日現在の「付与対象者の区分及び人数」は当社監査役1名、当社従業員5名であります。

2. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、200株であります。

ただし、新株予約権の割当日後、当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割または株式併合の比率}$$

3. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{株式分割又は株式併合の比率}}$$

また、新株予約権の割当日後に時価を下回る価額で新株式の発行又は自己株式の処分を行う場合は、次の算式により払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{既発行株式数} \times \text{調整前行使価額} + \text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり発行価額}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

4. 2019年12月26日開催の取締役会決議により2020年1月15日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。これにより、「新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数」、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

第7回新株予約権（2019年2月22日 取締役会決議）

決議年月日	2019年2月22日
付与対象者の区分及び人数(名)	当社取締役 4、当社及び子会社従業員 56 (注) 1
新株予約権の数(個)	1,313 (注) 2
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)	普通株式 262,600 (注) 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	900 (注) 3
新株予約権の行使期間	2021年2月24日～2024年2月23日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 900 資本組入額 450
新株予約権の行使の条件	新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができない。 新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社関係会社の取締役、監査役又は従業員の地位にあることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職その他取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りではない。 当社の普通株式にかかる株式が、国内のいずれかの金融商品取引所に上場された場合に限り、本新株予約権を行使することができる。 新株予約権者が死亡した場合は、その相続人による新株予約権の権利行使は認めない。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡はできないものとする。
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 4

当事業年度の末日（2020年3月31日）における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在（2020年5月31日）において、記載すべき内容が当事業年度の末日における内容から変更がないため、提出日の前月末現在に係る記載を書略しております。

- (注) 1. 付与対象者の区分及び人数は、付与日における区分及び人数を記載しております。付与対象者の退職等による権利の喪失により、本書提出日現在の「付与対象者の区分及び人数」は当社取締役4名、当社及び子会社従業員54名であります。
2. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、200株であります。
ただし、新株予約権の割当日後、当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により付与株式数を調整、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てるものとする。
調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割又は株式併合の比率
3. 新株予約権の割当日後、当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式により行使価額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{調整前行使価額} \times \text{株式分割又は株式併合の比率}}{1}$$

また、新株払込金額を調整し、調整により生ずる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{調整前行使価額} \times \left(\frac{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{既発行株式数} + \text{新株発行株式数}} \right)}{1 \text{株当たり時価}}$$

4. 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る）、吸収分割若しくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る）又は株式交換若しくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という）をする場合には、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。以下同じ）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。

- 5 . 2019年12月26日開催の取締役会決議により2020年1月15日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。これにより、「新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数」、「新株予約権の行使時の払込金額」、「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2015年9月30日 (注) 1	300	6,080	22,500	424,000	22,500	310,000
2016年2月1日 (注) 2	4,550	10,630	179,012	603,012	166,742	476,742
2017年3月31日 (注) 3	750	11,380	56,250	659,262	56,250	532,992
2018年3月30日 (注) 4	2,140	13,520	160,500	819,762	160,500	693,492
2018年6月20日 (注) 5	-	13,520	-	819,762	337,190	356,301
2020年1月15日 (注) 6	2,690,480	2,704,000	-	819,762	-	356,301
2020年3月27日 (注) 7	375,000	3,079,000	293,250	1,113,012	293,250	649,551

(注) 1 .2015年9月30日 第三者割当増資

発行価格：150,000円

資本組入額：75,000円

割当先：エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社 300株

2 .2016年2月1日 株式会社イーライセンスと株式会社ジャパン・ライツ・クリアランス合併に伴う株式無償割当

割当先：エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社 1,862株、株式会社フェイス 1,400株

株式会社JRCホールディングス 1,288株

3 .2017年3月31日 第三者割当増資

発行価格：150,000円

資本組入額：75,000円

割当先：株式会社アミューズ 300株、阿南雅浩 100株、荒川祐二 100株、

株式会社LDHmusic&publishing 100株、有限会社ラバーソウル 30株、

株式会社ブシロードミュージック 30株、有限会社ユークリッド・エージェンシー 30株、

株式会社バンダイナムコホールディングス 30株、セガサミーホールディングス株式会社 30株

4. 2018年3月30日 第三者割当増資

発行価格：150,000円

資本組入額：75,000円

割当先：株式会社アミューズ 1,200株、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント 660株、
株式会社フェイス 100株、株式会社アップフロントグループ 100株、
松村 晶司 50株、有限会社ラバーソウル 30株

5. 資本準備金の減少は、繰越利益剰余金の欠損填補によるものであります。

6. 発行済株式総数の増加は、株式分割（1：200）によるものであります。

7. 有償一般募集（ブックビルディング方式による募集）

発行価格 1,700円

引受価額 1,564円

資本組入額 782円

(5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	7	-	141	16	3	2,691	2,858	-
所有株式数(単元)	-	3,287	-	18,924	941	8	7,630	30,790	-
所有株式数の割合(%)	-	10.68	-	61.46	3.06	0.03	24.78	100	-

(6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
エイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社	東京都港区南青山3丁目1-30	460,400	14.95
株式会社アミューズ	東京都渋谷区桜丘町20-1	240,000	7.79
株式会社フェイス	京都府京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町566-1 井門明治安田生命ビル	240,000	7.79
株式会社JRCホールディングス	東京都渋谷区神宮前6丁目33-5 マンション原宿501号	206,100	6.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	154,400	5.01
株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント	東京都千代田区六番町4-5	132,000	4.28
株式会社創通	東京都中央区銀座5丁目9-5	118,000	3.83
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	102,900	3.34
株式会社博報堂DYメディアパートナーズ	東京都港区赤坂5丁目3-1	100,000	3.24
株式会社コーエーテクモゲームス	神奈川県横浜市港北区箕輪町1丁目18-12	90,000	2.92
計		1,843,500	59.87

(注)1. 当社は自己株式を保有していません。

2. 前事業年度末現在主要株主であった株式会社アミューズ、株式会社フェイスは、当事業年度末では主要株主ではなくなりました。

3. 2020年4月3日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、三野明洋が2020年3月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2020年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(千株)	株券等保有割合(%)
三野明洋	東京都大田区	197,000	6.40

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,079,000	30,790	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	3,079,000	-	-
総株主の議決権	-	30,790	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題と認識しており、企業体質の強化と将来の事業展開のために内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的に業績の成長に見合った成果を配当することを基本方針としております。従って、各期の経営成績及び財政状態等を勘案しながら、将来の事業展開と経営体質強化のために必要な内部留保を確保しつつ、利益還元の実施について検討する所存ですが、現時点において配当実施の可能性及びその実施時期等については未定であります。

なお当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当ができる旨を定款に定めており、剰余金の配当を行う場合には、中間配当、期末配当の年2回を基本的な方針とする予定です。配当の決定機関については期末配当は株主総会、中間配当は取締役会であります。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「権利者に選ばれ、利用者から支持される著作権管理業者となる。」という経営理念の下、持続的な企業発展を実現するためには、経営の健全性及び透明性を確保し、企業としての社会的責任を果たしていくことが重要であると認識しております。その前提のもとで、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な経営課題と認識し、役員及び全従業員が効率的かつ健全な業務執行に努めるよう管理体制の強化を進めてまいります。

なお、当社株式460,400株(14.95%)を所有しているエイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社はエイベックス株式会社の100%子会社であり、当社の主要株主に該当いたしますが、当社の取締役会を支配している状況ではなく、独立性は保たれております。また、当社と支配株主との間に取引が発生する場合には、一般の取引条件と同様の考え方で取引を行うことを基本方針としており、決裁申請書等の承認手続きを得ることによりしております。また、特に重要な取引が発生する場合は、取締役会で十分に審議することで少数株主に不利益を与えることがないように対応しております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は監査役制度を採用しております。監査役会は監査役3名(うち2名が社外監査役)で構成され、取締役の業務執行を監査・監視しております。当社は社外監査役を含めた監査役による監査体制が経営監視機能として有効であると判断し、当該制度を採用しております。

(取締役会)

当社の取締役会は、取締役5名(うち社外取締役2名)で構成され、当社の業務執行を決定し、取締役間の相互牽制により取締役の職務の執行を監督しております。取締役会は、取締役会規程に基づき、原則として毎月1回の定時取締役会を開催し取締役会規程に定める決議事項の審議及び決議、並びに重要な報告を行っている他、経営上の重要事項が発生した場合には、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。

(監査役会)

当社の監査役会は、監査役3名(うち社外監査役2名)で構成され、当社の業務監査の有効性及び効率性の確保並びに監査役間での意見交換等を目的に、原則として毎月1回開催しております。また、監査役は会計監査人及び内部監査室と緊密な連携を保ち、情報交換を行い、相互の連携を深めて、監査の実行性と効率性の向上に努めております。さらに、常勤監査役は、取締役会のほか、経営会議に出席し、必要に応じて意見陳述を行うほか、取締役や執行役員に業務の報告を求めるとともに、主要な部門を往査のうえ業務及び財産等の状況の調査を行うことにより、取締役の職務執行を監視・監査しております。常に取締役の業務執行を監視できる体制を整えております。

(経営会議)

当社では、業務執行取締役3名、執行役員4名及び常勤監査役が出席する経営会議を原則として毎週1回開催しております。経営会議では、業務執行状況の報告、取締役会決議事項の事前審議及び重要事項に関する共有又は指示伝達等を行っております。

(執行役員制度)

当社は意思決定、監督機能と業務執行機能を分離し、業務執行機能の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は取締役会によって選任され、取締役会が決定した基本方針に従って業務執行にあっております。有価証券報告書提出日現在、執行役員は4名です。

(コンプライアンス委員会)

コンプライアンス体制の構築、強化を図るために、コンプライアンス委員会を設置し、委員長には専務取締役、委員には社外取締役、常勤監査役及び社外監査役並びに当社執行役員を選出しており、必要に応じて適宜コンプライアンス委員会を開催しております。コンプライアンス委員会では、コンプライアンスに係る事項の検討、審議等を行い、当社グループにおけるコンプライアンス体制の強化を図っております。

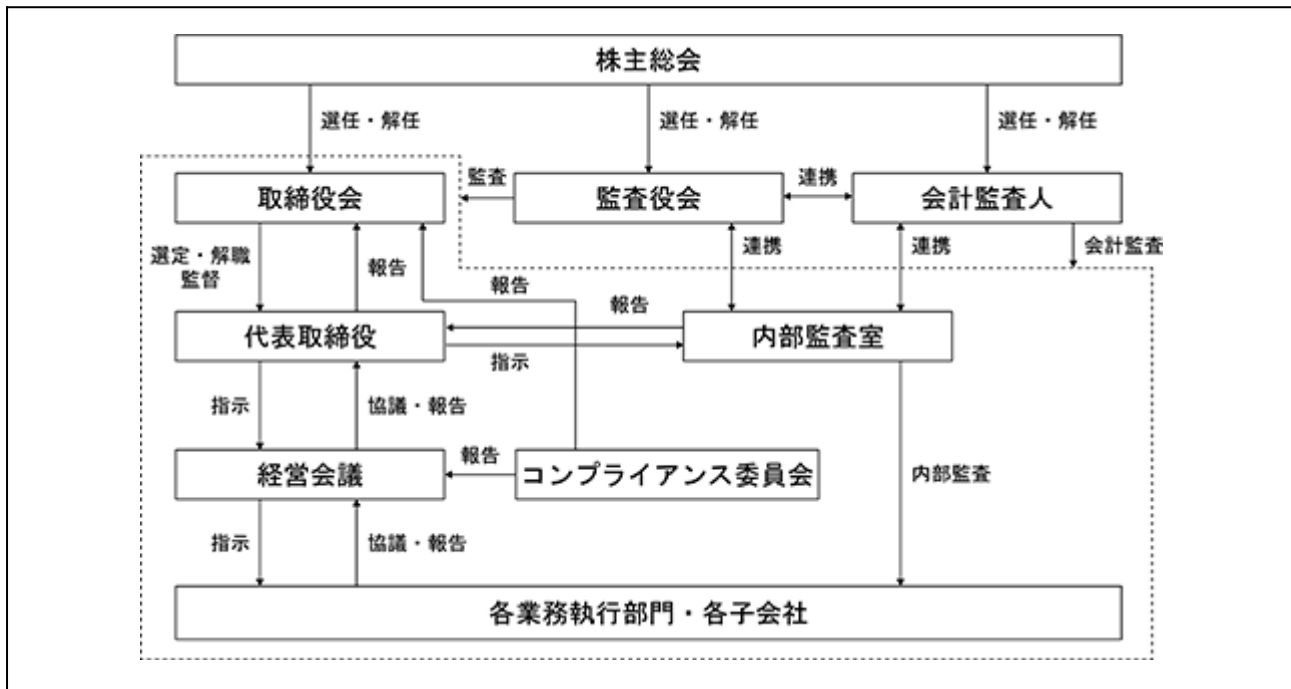
(監査体制)

代表取締役直属の内部監査室は、各部門の業務執行状況を監査しており、内部監査の結果につきましては、代表取締役に報告しております。

常勤監査役は内部監査室と適時情報を共有しており、会計監査人とは、四半期に一回程度の頻度で会合を行い、各監査の状況を相互に共有して連携を図り、効率的かつ有効な監査の実施に努めております。

社外監査役には、会社経営や財務・会計及び音楽業界に関する相当程度の知見を有する者を選任し、その専門性と経験等を活かして、会社の経営に対して独立した立場から監視・助言を行っております。社外監査役は取締役会に参加して経営を監視及び監督するとともに、会計監査人と連携して監査を実施しており、業務の適正は確保されていると考えられるため、監査役会設置会社としてコーポレート・ガバナンス体制を構築しております。

当社の企業統治の体制の模式図は以下のとおりであります。



(社外取締役及び社外監査役)

当社の社外取締役は2名であり、取締役高橋信彦は、当社の上位10名以内の株主である株式会社JRCホールディングスの代表取締役であります。また、取締役升本喜郎はTMI総合法律事務所のパートナー弁護士であります。

社外監査役は2名であり、監査役小林伸之は、当社の主要株主であるエイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社の株式を100%保有するエイベックス株式会社の常勤監査役であります。また、監査役大嶋敏史は、当社の上位10位以内の株主である株式会社アミューズの執行役員であります。

当社においては、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針を明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、各方面での豊富な経験と高度な専門知識、幅広い識見を有しており、外部からの客観的かつ中立的な経営監視機能を果たせることを前提に判断しております。

社外取締役の高橋信彦は株式会社ロードアンドスカイを設立以来、代表取締役を務めていることから、音楽業界をはじめとするエンタテインメント領域に関する豊富な経験と高度な知識を有しており、それにより当社の経営全般に関する助言をいただけることを期待して、選任しております。

社外取締役の升本喜郎はTMI総合法律事務所のパートナー弁護士であり、音楽業界をはじめとするエンタテインメント領域や著作権をはじめとする知的財産権に関する豊富な経験と高度な知識を有しており、それにより当社の経営全般に関する助言をいただけることを期待して、選任しております。また、東京証券取引所が定める独立役員として同取引所に届け出ております。

社外監査役の小林伸之はエイベックスグループの要職を歴任し、現在はエイベックス株式会社の常勤監査役を務めていることから、音楽業界及び監査役監査に関する豊富な経験と高度な知識を有しており、それにより当社の経営全般に関する助言をいただけることを期待して、選任しております。

社外監査役の大嶋敏史は公認会計士であり、監査法人を退所後、株式会社アミューズの社外監査役に就任し、現在は同社の執行役員グループ管理部、グループ財務部担当を務めていることから、財務・会計及び音楽業界に関する豊富な経験と高度な知識を有しており、それにより当社の経営全般に関する助言をいただけることを期待して、選任しております。

機関ごとの構成員は次のとおりであります。(は議長、委員長を表す。)

役職名	氏名	取締役会	監査役会	経営会議	コンプライアンス委員会
代表取締役CEO	阿南 雅浩				○
代表取締役COO	荒川 祐二	○		○	
専務取締役	名越 禎二	○		○	
社外取締役	高橋 信彦	○			
社外取締役	升本 喜郎	○			○
常勤監査役	佐藤 俊樹			○	○
社外監査役	小林 伸之		○		○
社外監査役	大嶋 敏史		○		
執行役員	足立 大輔			○	
執行役員	伊藤 圭介			○	
執行役員	猪熊 宏志			○	○
執行役員	桃枝 宏之			○	

企業統治に関するその他の事項

(i) 内部統制システムの整備状況

当社は、業務の適正性を確保するために、2017年1月27日開催の取締役会の決議により「NexTone内部統制基本方針」を定めており、当該基本方針に基づき内部統制システムの運用を行っております。その概要は以下のとおりであります。

- a. 当社グループの取締役、執行役員、業務を執行する社員、会社法第598条第1項の職務を行うべき者その他これらの者に相当する者（以下「取締役等」という）の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - (a) 当社の代表取締役CEOが、法令・定款及び社会倫理の遵守（以下「コンプライアンス」という）を企業活動の前提とすることを明確にし、それを継続的に役職員に伝えることを徹底します。
 - (b) 当社の代表取締役CEOは、社内規則に基づき、コンプライアンス体制の整備及び問題点の把握と解決に努めます。
 - (c) 当社は、当社グループ全体のコンプライアンス問題の一元的な管理の一環として、コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス委員会にて、当社グループのコンプライアンス上の重要な問題を調査・審議し、処分や再発防止策に関する諮問及び提言を経営会議に行います。それを踏まえて経営会議にて、内容を吟味し再発防止策を実施することで、問題の解決を図ります。また、コンプライアンス委員会はコンプライアンス施策を実施し、コンプライアンス意識の醸成を図ります。
 - (d) 取締役及び監査役がコンプライアンス上の問題を発見した場合は、すみやかに経営会議に報告するとともに、必要に応じてコンプライアンス委員会を開催し、コンプライアンス上の重要な問題を調査・審議し、処分や再発防止策に関する諮問及び提言を経営会議に行います。報告を受けた経営会議は、その内容を調査し、再発防止策を実施の上、必要に応じて取締役会に報告します。
 - (e) 暴力団排除条例等の法令に基づき、反社会的勢力・団体との関係は一切持たないことを基本方針とし、いかなる不当要求や働きかけに対しても組織として毅然とした対応を取ることとします。
 - (f) 財務報告に係る内部統制の整備・構築を推進し、財務報告の信頼性を確保します。
- b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - (a) 社内規則に従い、取締役の職務の執行に係る情報を文書又は電磁的媒体（以下総称して「文書等」という）に記録し、保存します。
 - (b) 取締役及び監査役は常時、前項の文書等を閲覧できるものとします。
- c. 当社グループの損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - (a) 代表取締役CEOは、当社グループ全体のリスクを網羅的かつ統括的に管理するリスク管理体制を明確化します。
 - (b) 前項のリスク管理体制の下、リスクの重要性及び事業の特性等に応じてリスクの特定・評価を行い、対応策を整備します。またリスクが顕在化した場合に、迅速かつ適切な対応を講じることができる体制を構築します。
- d. 当社グループの取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - (a) 職務権限規程により当社グループの職務権限及び意思決定ルールを明確化することにより、適正かつ効率的に取締役の職務の執行が行われる体制を整備します。
 - (b) 当社の取締役会において業績目標と予算を設定し、ITを活用して業績管理を行います。また、効率的な人的資源の配分を行います。

- e . 当社グループ各社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- (a) 当社は、内部統制システムの構築を目指すと共に、当社グループ各社間での内部統制に関する協議、情報の共有化、指示・要請の伝達等が効率的に行われるシステムを含む体制を構築します。
 - (b) 当社の代表取締役C E Oは、当社の内部統制に関する責任者として、当社グループの業務執行の適正を確保する内部統制の確立と運用の権限と責任を有します。
 - (c) 当社は、事業計画の進捗状況等を取締役会において定期的に報告し、業務の適正と情報共有化を促進します。
- f . 監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項並びに当該使用人の取締役からの独立性に関する事項
- (a) 監査役がその職務を補助する使用人を置くことを求める時は、取締役と協議の上、専属の職員を配置するものとします。監査役の職務を補助する当該職員は、当該補助に関して、取締役等の指揮命令を受けないものとし、当該職員は、定期に又は必要に応じて監査役に報告を行い、また意見・情報交換を行うものとします。
 - (b) 当該職員の人選、異動及び懲戒処分については、監査役の意見を徴するものとします。
- g . 当社グループの取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制
- (a) 役職員は、重大な法令・定款違反又はコンプライアンス違反等により、当社グループに著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した場合、又はその事実の報告を受けた場合、遅滞なく監査役に報告しなければならないこととします。
 - (b) 役職員は、監査役の求めに応じて会議の場を設け、職務の執行状況報告ほか、必要な報告及び情報交換を行います。
- h . 監査役に重大な法令・定款違反又はコンプライアンス違反等により、当社グループ各社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を報告した者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- 当社グループ各社の役職員が監査役に報告を行った場合、報告を理由として、解雇、降格、減給等いかなる不利益取扱いも行わないものとします。
- i . 監査役職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
- 監査役職務の執行に関する取引における、費用の前払の請求、支出した費用の請求、負担した債務の債権者に対する弁済の請求（当該請求に係る費用又は債務が当該監査役職務の執行に必要でないことを証明した場合を除く）について、それに応じます。
- j . その他監査役職務の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- (a) 監査役は、取締役会他、重要な会議に出席し、意見を述べることができます。
 - (b) 監査役は、定期に又は必要に応じて会計監査人の報告を受けます。また意見・情報交換を行うことができます。
 - (c) 監査役は必要に応じて、外部の専門家に助言を求めることができます。
 - (d) 監査役は、随時、社内の情報システムの情報を閲覧することができます。

() 取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨を定款で定めています。

() 取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数によって選任する旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

() 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を行うため、会社法第309条第2項に定める株主総会決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。

() 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項

a. 中間配当

当社は、株主への柔軟な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

b. 自己株式の取得

当社は、機動的な資本政策を遂行するために、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

c. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務の遂行にあたり期待される役割を十分に発揮できるようにするため、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役及び監査役(取締役及び監査役であった者を含む。)の損害賠償責任を、法令に定める限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。また、会社法第427条第1項の規定により、社外取締役及び社外監査役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めており、当該契約に基づく責任の限度額は、法令に定める限度額としております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性8名 女性 - 名(役員のうち女性の比率 - %)

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(株)
代表取締役CEO コンプライアンス担当	阿南 雅浩	1962年9月1日	1986年4月 2002年2月 2004年6月 2005年4月 2006年6月 2007年9月 2014年6月 2015年3月 2015年10月 2016年2月	(株)シービーエス・ソニーグループ (現:(株)ソニー・ミュージックエン タテインメント(以下「SME」)) 入社 同社 契約グループ契約部部長 同社 コーポレート・スタッフ・グ ループ ゼネラルマネージャー兼契約 グループ契約部部長 (株)ミュージックレイン 代表取締役 SMEコーポレート・スタッフ・グ ループ ゼネラルマネージャー兼SM E契約グループ契約部部長 (株)ミュージック・オン・ティ ヴィー 取締役 エイベックス・グループ・ホールディ ングス(株)(現:エイベックス(株)) 執行役員 エイベックス・ミュージック・パプ リッシング(株) 代表取締役社長 (株)イーライセンス(現当社) 取締役 同社 代表取締役社長 当社 代表取締役CEO(現任)	注3	20,000
代表取締役COO 著作権管理本部管掌	荒川 祐二	1965年4月14日	1992年6月 1995年4月 2000年12月 2003年8月 2007年2月 2010年10月 2016年2月 2016年4月 2017年6月 2020年4月	(株)電通コーテック(現:電通テック) 入社 (株)プロマックス 取締役 (株)ジャパン・ライツ・クリアランス 代表取締役 (株)JRCホールディングス 代表取 締役 (株)JRCラボラトリーズ 取締役 (株)JRCアカウンティング 代表取 締役 当社 代表取締役COO(現任) 当社 事業本部長 (株)NexToneシステムズ 取締役(現任) 当社 著作権管理本部管掌(現任)	注3	20,000
専務取締役 営業本部管掌 コンプライアンス委員長	名越 禎二	1956年5月29日	1981年4月 1985年1月 1988年2月 1991年12月 1998年8月 2000年12月 2001年1月 2002年6月 2006年6月 2007年6月 2009年4月 2012年4月 2014年7月 2015年10月 2016年2月 2017年4月 2017年6月 2020年4月 2020年6月	(株)ニューズレコード 入社 シックスティレコード(株) 入社 (株)ブラッツ 入社 宣伝課長 (株)ワーナーミュージック・ジャパ ン A&Rチーフ・プロデューサー (株)オラシオン 入社 営業部 部長 同社 退社 (株)イーライセンス(現当社) 入社 営業部長 (株)エムシージェーピー代表取締役 (現任) (株)イーライセンス 取締役 同社 専務取締役 同社 取締役副社長 同社 取締役副社長 COO 同社 取締役 営業統括 同社 取締役 著作権管理事業部事業 統括 同社 常務取締役 当社 取締役 イーライセンス事業本 部長 当社 取締役 営業本部長 当社 常務取締役 営業本部長 当社 常務取締役 営業本部管掌 当社 専務取締役 営業本部管掌(現任)	注3	16,600

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(株)
取締役	高橋 信彦	1952年5月8日	1977年11月 1983年4月 1989年6月 2000年4月 2016年2月 2018年6月	東京音楽出版(株)(現:株式会社ホリプロ)入社 (株)ロードアンドスカイ設立 代表取締役(現任) (株)ロードアンドスカイ・オーガニゼーション 代表取締役(現任) (株)ジェマティカ・レコーズ 代表取締役(現任) (社)日本音楽制作者連盟 監事 (株)ジャパン・ライツ・クリアランス 取締役 当社 社外取締役(現任) (株)JRCホールディングス 代表取締役(現任)	注3	-
取締役 コンプライアンス委員	升本 喜郎	1962年6月18日	1991年4月 1993年4月 2000年6月 2000年9月 2001年9月 2002年1月 2004年4月 2007年6月 2017年4月 2018年6月 2019年6月	最高裁判所司法研修所 入所 第二東京弁護士会登録 TMI総合法律事務所勤務 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)ロースクール卒業 米国ニューヨーク ソニー・ミュージックエンタテインメント・インク 法務/ビジネスアフェアーズ部門勤務 TMI総合法律事務所復帰 同事務所パートナー(現任) 中央大学法科大学院 兼任講師(現任) 一般社団法人外国映画輸入配給協会 理事(現任) 一般財団法人映画倫理機構 理事 映画倫理委員会委員(現任) 一般社団法人日本知財学会理事(現任) 当社 社外取締役(現任)	注3	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
常勤監査役 コンプライアンス副委員長	佐藤 俊樹	1961年10月2日	1982年4月 日本コロムビア(株) 入社 2000年8月 同社 計画部長 2002年4月 (株)第一興商 入社 2002年10月 (株)徳間ジャパンコミュニケーションズ 出向 同社 管理副本部長 2003年7月 (株)ソーホーズ・ホスピタリティ・グループ 入社 経理部長 2004年3月 わらべや日洋(株)入社 経営企画部課長 2006年4月 (株)マッグガーデン 入社 経理部長 2006年7月 (株)イーライセンス(現当社)入社 管理部長 2007年6月 同社 取締役 管理部長 (株)エムシージェイビー 取締役 管理部長 2009年4月 (株)イーライセンス(現当社) 取締役 経営管理部長 2011年4月 同社 執行役員 管理部長 2011年7月 (株)イーライセンスシステムズ(現:(株)NexToneシステムズ) 監査役(現任) 2013年4月 (株)イーライセンス(現当社) 経営企画室長 2015年4月 同社 経営管理部長 2016年2月 当社 経営管理本部 管理部長 2017年6月 当社 監査役 (株)エムシージェイビー 監査役(現任) 2018年6月 当社 常勤監査役(現任)	注4	1,600
監査役 コンプライアンス委員	小林 伸之	1956年9月4日	1979年4月 パイオニア(株) 入社 1998年10月 エイベックス・ディストリビューション(株)(現エイベックス・エンタテインメント(株)) 入社 1999年7月 同社 取締役 2004年4月 同社 常務取締役 2007年4月 エイベックス・マーケティング(株)(現:エイベックス・エンタテインメント(株)) 取締役 2010年5月 同社 執行役員 第2販促営業本部長 2011年7月 同社 執行役員 管理本部長 2013年6月 エイベックス・グループ・ホールディングス(株)(現エイベックス(株)) 常勤監査役(現任) エイベックス・ミュージック・パブリッシング(株) 監査役 2016年2月 当社 社外監査役(現任)	注4	-
監査役	大嶋 敏史	1967年4月8日	1992年10月 太田昭和監査法人(現:EY新日本有限責任監査法人)入所 1997年4月 公認会計士開業登録 2008年5月 新日本監査法人(現:EY新日本有限責任監査法人)退所 2008年6月 大嶋公認会計士事務所開設(現在に至る) (株)アミューズ 社外監査役 2014年6月 同社 社外監査役 退任 2014年7月 同社 エグゼクティブプロデューサー グループ管理部長 2016年4月 同社 執行役員 グループ管理部、グループ財務部担当(兼グループ管理部長)(現任) 2018年6月 当社 社外監査役(現任)	注4	-
計					58,200

- (注) 1. 取締役高橋信彦及び升本喜郎は、社外取締役であります。
2. 監査役小林伸之及び大嶋敏史は、社外監査役であります。
3. 任期は、2019年11月28日開催の臨時株主総会終結の時から2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
4. 任期は、2019年11月28日開催の臨時株主総会終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。

社外役員の状況

当社では、社外取締役2名及び社外監査役2名を選任しております。

当社において、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針について特段の定めはありませんが、東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準を勘案した上で、当社グループとの人的関係、資本的關係または取引関係その他利害関係を総合的に勘案し、実質的に経営者から独立した判断ができる人材であることを重視して選任しております。

社外取締役高橋信彦氏は、当社の上位10名以内の株主である株式会社JRCホールディングスの代表取締役であるため、独立役員には選任していませんが、長年の音楽業界における豊富な経験及び識見を有しており、それを当社の経営とガバナンスの強化に活かしていただけるものと考え、社外取締役に選任しております。

社外取締役升本喜郎氏は、弁護士としての豊富な経験及び識見を有しており、それを当社の経営とガバナンスの強化に活かしていただけるものと考え、社外取締役に選任しております。なお、同氏は会社経営に直接関与した経験はありませんが、前記の理由により社外取締役としての職務を適切に遂行できるものと判断しております。同氏と当社との間には、人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役小林伸之氏は、当社の主要株主であるエイベックス・ミュージック・パブリッシング株式会社の100%親会社であるエイベックス株式会社の常勤監査役であるため、独立役員には選任していませんが、エイベックスグループにおいて監査役及び業務執行経験を有しており、それを当社の経営とガバナンスの強化に活かしていただけるものと考え、社外監査役に選任しております。

社外監査役大嶋敏史氏は、当社の上位10名以内の株主である株式会社アミューズの業務執行者であるため、独立役員には選任していませんが、公認会計士としての豊富な経験と幅広い知識に加え、株式会社アミューズで社外監査役及び業務執行経験を有しており、それを当社の経営とガバナンスの強化に活かしていただけるものと考え、社外監査役に選任しております。

社外取締役又は社外監査役による監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

内部監査は、内部監査責任者を任命し、業務活動に関して、運営状況、業務実施の有効性及び正確性について監査を行い、その結果を代表取締役CEOに対して報告しております。社外取締役と社外監査役は、代表取締役CEOが任命した内部監査責任者より内部監査計画並びに内部監査、内部統制の運用状況、監査役監査及び会計監査の結果について適宜報告を受けております。

監査役は、監査役会で策定した監査計画に基づいて当社の業務全般について常勤監査役を中心として計画的かつ効果的な監査を実施しております。また、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役との意見交換、重要な決裁書類等の閲覧を通じ監査を実施しております。

また、内部監査責任者は、「(3)監査の状況 内部監査の状況」に記載のとおり、社外監査役及び会計監査人と定期的に会合を実施することで相互連携を図っております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

当社における監査役監査は、常勤監査役1名及び非常勤監査役2名（2名とも社外監査役であり、1名は上場企業の常勤監査役、もう1名は公認会計士であり、上場企業の執行役員で財務部門担当として、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております）が、監査役相互で連携することで、効率的な監査を実施しております。

また、取締役会に出席し、質問や意見を述べることにより経営の適正性・妥当性について確認するほか、年間の監査計画に基づいた監査を実施しております。

当事業年度において監査役会を10回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
佐藤 俊樹	10回	10回
小林 伸之	10回	10回
大嶋 敏史	10回	10回

監査役会における主な検討事項は、以下のとおりであります。

- ）会社の監督機能状況の検討
- ）独立の機関として取締役の職務執行状況の検討
- ）会社の健全で持続的な成長を確保し、社会的信頼に応える良質な企業統治体制の確立状況の検討

常勤監査役の活動は、以下のとおりであります。

- ）重要会議への出席（取締役会、経営会議 他）
- ）取締役等からの業務報告聴取
- ）経営トップとの意見交換
- ）重要書類の閲覧調査
- ）会計監査人との連携
- ）内部監査室との連携
- ）内部統制部門との連携

内部監査の状況

当社における内部監査は、内部監査室を設置し、専任の責任者1名により内部監査を実施しており、監査計画に従い、法令の遵守状況及び業務活動の効率性、適正性等について内部監査を実施し、監査結果を代表取締役CEOに報告しております。

また、内部監査責任者は、監査役会及び会計監査人と定期的に情報交換を行っております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

b. 継続監査期間

4年間

c. 業務を執行した公認会計士

大高 俊幸
後藤 英俊

d. 監査業務にかかる補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士10名、その他9名の合計19名で構成されています。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、会計監査人の評価に係る判断基準を策定し、独立性・専門性等を有することについて検証、確認することにより、会計監査人を適切に選定しております。

当社は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、監査役会が決定した会計監査人の解任又は不再任の議案を株主総会に提出いたします。

また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める事由に該当すると認められる場合には、監査役全員の同意により会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集

される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、監査法人の評価を行っており、有限責任監査法人トーマツについて、会計監査人の独立性・専門性等を害する事由等の発生はなく、適正な監査の遂行が可能であると評価しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	15,000	-	30,500	2,800
連結子会社	-	-	-	-
計	15,000	-	30,500	2,800

(注) 当連結会計年度における非監査業務に基づく報酬の内容は、新規上場に係るコンフォートレター作成業務であります。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク(デロイトグループ)に属する組織に対する報酬(a.を除く)
該当事項はありません。

c. その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容
該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の事業規模、監査日数及び業務の特性等を勘案し、監査法人より提示された監査内容、監査日数等を勘案し、双方協議の上で決定しております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

会計監査人の監査計画及び報酬見積り等の算出根拠等について検討した結果、会計監査人の報酬等の額について妥当と判断し、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役の報酬の決定方針や、報酬額(実支給額)の決定に当たっては、取締役会における審議・決定プロセスを経ることとしています。報酬額(実支給額)の決定に際し、加算報酬を除く、取締役の各報酬の支給総額及び個人別支給額は、株主総会で決議された総報酬額の範囲内において、総額については取締役全員の承認を得、各人の具体的配分額は、常勤取締役3名の合議により決定し、常勤取締役当人の配分額はその余の2名の合議により決定することとして決議しております。なお、各取締役の固定報酬の額に関しては、当社を取り巻く経営環境など経済情勢の変化により、加算または減算を行うこととしております。

役員賞与に関しては、業績の状況に応じて増減を行うこととしており、連結営業利益を指標として、各人の具体的配分額は、常勤取締役3名の合議により決定し、常勤取締役当人の配分額はその余の2名の合議により決定することとして決議しております。

取締役の報酬限度額は、2018年6月20日開催の第18期定時株主総会にて年額200,000千円以内と決議されており、決議当時の対象取締役は6名となります。

役員退職慰労引当金については、役員報酬規程において、代表取締役及び業務執行取締役などの役職ごとに定めた係数に基づき算出しております。

また、上記の報酬とは別枠で、2019年2月22日開催の臨時株主総会において、業績向上及び企業価値増大に対する意欲や士気を高めること等を目的として、取締役(社外取締役を除く)に対し、ストック・オプション報酬額として年額100百万円以内と決議されております。

監査役の報酬等は、株主総会で決議された総報酬額の範囲内において、監査役会にて協議して決定してお

ります。

なお、監査役の報酬限度額は、2018年6月20日開催の第18期定時株主総会にて年額40,000千円以内と決議されており、決議当時の対象監査役は3名となります。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	賞与	退職慰労引当金 繰入額	
取締役 (社外取締役を除く)	113,432	87,000	-	7,432	19,000	4
監査役 (社外監査役を除く)	10,787	9,500	-	100	1,187	1
社外役員	3,000	3,000	-	-	-	1

- (注) 1. 上記取締役の員数及び報酬等の額には、2020年6月24日開催の第20期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役1名を含んでおります。
2. 上記の社外役員の員数には、無報酬の取締役(1名)及び監査役(2名)は含まれておりません。
3. 賞与には上場記念の特別祝金の支給を含んでおります。支給額は1人当たり100千円です。

役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的の株式投資及び純投資目的以外の目的の株式投資の区分について、株式の価値の変動または株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする純投資目的の株式を投資株式とし、それ以外の株式を純投資目的以外の投資株式（政策保有株式）と区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式
該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式
該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、監査法人など外部機関が開催する会計基準の変更等に関する研修に参加するとともに、必要に応じて監査法人との協議を実施しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,031,254	3,313,113
受取手形及び売掛金	441,042	175,688
仕掛品	8,088	-
前渡金	104,154	82,522
その他	9,715	59,590
流動資産合計	2,594,256	3,630,914
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	15,777	8,221
工具、器具及び備品（純額）	12,322	12,850
有形固定資産合計	1 28,099	1 21,071
無形固定資産		
のれん	110,105	93,992
ソフトウェア	320,469	329,391
その他	2,209	52,804
無形固定資産合計	432,783	476,188
投資その他の資産		
繰延税金資産	23,580	41,159
その他	57,126	77,557
投資その他の資産合計	80,706	118,717
固定資産合計	541,590	615,977
資産合計	3,135,846	4,246,891
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	565,612	505,509
未払金	810,184	1,112,756
未払法人税等	49,297	120,810
前受金	142,608	99,328
賞与引当金	18,310	58,791
その他	43,564	32,846
流動負債合計	1,629,578	1,930,044
固定負債		
役員退職慰労引当金	104,411	124,598
退職給付に係る負債	58,224	71,426
固定負債合計	162,635	196,024
負債合計	1,792,214	2,126,069

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	819,762	1,113,012
資本剰余金	356,301	649,551
利益剰余金	160,753	358,257
株主資本合計	1,336,817	2,120,821
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,044	-
その他の包括利益累計額合計	1,044	-
非支配株主持分	5,769	-
純資産合計	1,343,632	2,120,821
負債純資産合計	3,135,846	4,246,891

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	3,239,801	4,345,481
売上原価	2,261,239	3,159,644
売上総利益	978,562	1,185,837
販売費及び一般管理費	¹ 796,112	¹ 880,171
営業利益	182,449	305,665
営業外収益		
受取利息	235	110
助成金収入	3,350	-
その他	796	693
営業外収益合計	4,381	804
営業外費用		
上場関連費用	-	11,241
支払利息	50	-
為替差損	76	-
その他	451	-
営業外費用合計	577	11,241
経常利益	186,254	295,228
特別利益		
固定資産売却益	² 2,413	-
関係会社株式売却益	-	9,067
特別利益合計	2,413	9,067
特別損失		
固定資産除却損	³ 0	-
特別損失合計	0	-
税金等調整前当期純利益	188,667	304,296
法人税、住民税及び事業税	48,795	130,387
法人税等調整額	5,866	17,579
法人税等合計	54,662	112,808
当期純利益	134,005	191,488
非支配株主に帰属する当期純利益	4,411	-
親会社株主に帰属する当期純利益	129,593	191,488

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	134,005	191,488
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	357	1,412
その他の包括利益合計	1 357	1 1,412
包括利益	134,362	190,075
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	129,857	190,443
非支配株主に係る包括利益	4,504	367

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	819,762	752,933	365,471	1,207,224
当期変動額				
欠損填補		396,631	396,631	-
親会社株主に帰属する 当期純利益			129,593	129,593
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	396,631	526,225	129,593
当期末残高	819,762	356,301	160,753	1,336,817

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	780	780	1,264	1,209,269
当期変動額				
欠損填補				-
親会社株主に帰属する 当期純利益				129,593
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	264	264	4,504	4,769
当期変動額合計	264	264	4,504	134,362
当期末残高	1,044	1,044	5,769	1,343,632

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	819,762	356,301	160,753	1,336,817
当期変動額				
新株の発行	293,250	293,250		586,500
親会社株主に帰属する 当期純利益			191,488	191,488
連結除外に伴う利益剰 余金の増加額			6,016	6,016
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				
当期変動額合計	293,250	293,250	197,504	784,004
当期末残高	1,113,012	649,551	358,257	2,120,821

	その他の包括利益累計額		非支配株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,044	1,044	5,769	1,343,632
当期変動額				
新株の発行				586,500
親会社株主に帰属する 当期純利益				191,488
連結除外に伴う利益剰 余金の増加額				6,016
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	1,044	1,044	5,769	6,814
当期変動額合計	1,044	1,044	5,769	777,189
当期末残高	-	-	-	2,120,821

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	188,667	304,296
減価償却費	67,146	75,099
のれん償却額	16,113	16,113
受取利息	235	110
支払利息	50	-
固定資産除売却損益(は益)	2,413	-
売上債権の増減額(は増加)	193,302	264,533
仕入債務の増減額(は減少)	221,887	16,185
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	54,078	20,187
関係会社株式売却損益(は益)	-	9,067
前受金の増減額(は減少)	155,451	25,940
前渡金の増減額(は増加)	123,673	18,359
未払金の増減額(は減少)	210,965	298,798
その他	21,606	12,019
小計	552,787	990,474
利息の受取額	235	185
利息の支払額	50	-
法人税等の支払額	22,717	63,484
営業活動によるキャッシュ・フロー	530,255	927,175
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	19,636	5,443
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	-	88,054
貸付金の回収による収入	-	4,585
無形固定資産の取得による支出	69,651	115,807
敷金及び保証金の差入による支出	-	27,096
その他	2,375	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	86,912	231,816
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	15,000	-
株式の発行による収入	-	586,500
財務活動によるキャッシュ・フロー	15,000	586,500
現金及び現金同等物に係る換算差額	264	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	428,607	1,281,858
現金及び現金同等物の期首残高	1,602,647	2,031,254
現金及び現金同等物の期末残高	1 2,031,254	1 3,313,113

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 2社

連結子会社の名称

株式会社エムシージェイピー

株式会社NexToneシステムズ

当連結会計年度において、酷亞音樂股份有限公司(One Asia Music Inc.)は、保有株式の一部売却及び酷亞音樂股份有限公司(One Asia Music Inc.)による第三者割当増資に伴う持株比率低下により、支配を喪失したため、同社、同社の子会社であるOne Asia Music Hong Kong Ltd.及び美子酷亜音尿(深圳)有限公司(One Asia Music(Shenzhen) Ltd.)を連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

持分法を適用した関連会社

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券(時価のないもの)

移動平均法による原価法

たな卸資産

仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 2～6年

工具、器具及び備品 2～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

ソフトウェア(自社利用) 5～10年(社内における利用可能期間)

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。なお、当連結会計年度においては貸倒実績がなく、貸倒懸念債権等もないため貸倒引当金は計上しておりません。

賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、役員報酬規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見積額に基づき当連結会計年度末に発生していると認められる額を計上しております。当社及び連結子会社は、従業員の退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

10年間の定額法により償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

その他

記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

記載金額が「0」は千円未満であることを示しております。

記載金額が「-」は該当金額がないことを示しております。

(未適用の会計基準等)

(収益認識に関する会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)

1 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

2 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

3 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

- ・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

1 概要

国際会計基準審議会(IASB)が2003年に公表した国際会計基準(IAS)第1号「財務諸表の表示」(以下「IAS第1号」)第125項において開示が求められている「見積りの不確実性の発生要因」について、財務諸表利用者にとって有用性が高い情報として日本基準においても注記情報として開示を求めることを検討するよう要望が寄せられ、企業会計基準委員会において、会計上の見積りの開示に関する会計基準(以下「本会計基準」)が開発され、公表されたものです。

企業会計基準委員会の本会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、個々の注記を拡充するのではなく、原則(開示目的)を示したうえで、具体的な開示内容は企業が開示目的に照らして判断することとされ、開発にあたっては、IAS第1号第125項の定めを参考とすることとしたものです。

2 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

1 概要

「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実について検討することが提言されたことを受け、企業会計基準委員会において、所要の改正を行い、会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準として公表されたものです。

なお、「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実を図るに際しては、関連する会計基準等の定めが明らかな場合におけるこれまでの実務に影響を及ぼさないために、企業会計原則注解(注1-2)の定めを引き継ぐこととされております。

2 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	25,281千円	37,566千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
給与及び手当	245,300千円	240,325千円
役員報酬	86,551 "	99,500 "
賞与引当金繰入額	14,678 "	47,902 "
退職給付費用	10,134 "	12,512 "
役員退職慰労引当金繰入額	54,078 "	20,187 "

2 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
ソフトウェア	2,413千円	- 千円

3 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
工具、器具及び備品	0千円	- 千円

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

(千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
為替換算調整勘定		
当期発生額	357	636
組替調整額	-	775
為替換算調整勘定	357	1,412
その他の包括利益合計	357	1,412

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,520	-	-	13,520

2 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	
合計			-	-	-	-	

(変動事由の概要)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,520	3,065,480	-	3,079,000

(注) 1. 当社は2020年1月15日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。

2. 普通株式の発行済株式の増加3,065,480株のうち、2,690,480株は株式分割によるものであり、375,000株は新株の発行によるものであります。

2 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	
合計			-	-	-	-	

(変動事由の概要)

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金	2,031,254千円	3,313,113千円
現金及び現金同等物	2,031,254千円	3,313,113千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社及び連結子会社は、資金計画に基づき必要な資金は新株の発行により調達しております。また、資金運用に関しては、短期的な預金等に限定し、デリバティブ取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払金並びに未払法人税等は、1年以内の支払期日であり、流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）に晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の債務不履行等に係るリスク）の管理

当社及び連結子会社は、与信管理規程に基づき、営業債権について、取引先の信用状況等を把握するとともに、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行う体制をとっております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社及び連結子会社は、月次で資金繰計画を作成するなどの方法により流動性リスクを管理する体制をとっております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2019年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,031,254	2,031,254	-
(2) 受取手形及び売掛金	441,042	441,042	-
資産計	2,472,297	2,472,297	-
(1) 支払手形及び買掛金	565,612	565,612	-
(2) 未払金	810,184	810,184	-
(3) 未払法人税等	49,297	49,297	-
負債計	1,425,094	1,425,094	-

当連結会計年度(2020年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	3,313,113	3,313,113	-
(2) 受取手形及び売掛金	175,688	175,688	-
資産計	3,488,801	3,488,801	-
(1) 支払手形及び買掛金	505,509	505,509	-
(2) 未払金	1,112,756	1,112,756	-
(3) 未払法人税等	120,810	120,810	-
負債計	1,739,077	1,739,077	-

(注1)金融商品の時価の算定方法に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 未払金、並びに(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2)金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,031,254	-	-	-
受取手形及び売掛金	441,042	-	-	-
合計	2,472,297	-	-	-

当連結会計年度(2020年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,313,113	-	-	-
受取手形及び売掛金	175,688	-	-	-
合計	3,488,801	-	-	-

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は、退職一時金制度を採用しており、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	56,411	58,224
退職給付費用	10,134	13,201
退職給付の支払額	8,321	-
退職給付に係る負債の期末残高	58,224	71,426

(2) 退職給付債務及び連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

(千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	58,224	71,426
連結貸借対照表に計上された負債	58,224	71,426
退職給付に係る負債	58,224	71,426
連結貸借対照表に計上された負債	58,224	71,426

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度10,134千円 当連結会計年度13,201千円

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションにかかる費用計上額及び科目名
該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第6回新株予約権	第7回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社
決議年月日	2010年6月25日	2019年2月22日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 2名 当社従業員 6名	当社取締役 4名 当社及び子会社 従業員 56名
株式の種類別のストック・オプションの数(注)1、2	普通株式 18,800株	普通株式 270,000株
付与日	2010年8月1日	2019年2月23日
権利確定条件	付与日(2010年8月1日)以降、権利確定日(2012年7月31日)まで継続して勤務していること	付与日(2019年2月23日)以降、権利確定日(2021年2月23日)まで継続して勤務していること
対象勤務期間	定めておりません	定めておりません
権利行使期間	2012年8月1日から 2020年3月31日まで	2021年2月24日から 2024年2月23日まで

(注) 株式数に換算して記載しております。なお、2020年1月15日付株式分割(普通株式1株につき200株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2020年3月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

なお、2020年1月15日に1株を200株とする株式分割を行っておりますが、以下は、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

ストック・オプションの数

	第6回新株予約権	第7回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社
権利確定前(株)		
前連結会計年度末	-	-
付与	-	-
失効	-	-
権利確定	-	-
未確定残	-	-
権利確定後(株)		
前連結会計年度末	18,800	270,000
権利確定	-	-
権利行使	-	-
失効	-	7,400
未行使残	18,800	262,600

単価情報

	第6回新株予約権	第7回新株予約権
会社名	提出会社	提出会社
権利行使価格(円)	992	900
行使時平均株価(円)	-	-
付与日における公正な評価単価(円)	-	-

第7回新株予約権の発行に伴い、第6回新株予約権の権利行使価格を調整しております。

3. ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法

第6回新株予約権及び第7回新株予約権の付与日において当社は未公開企業であったため、ストック・オプションの公正な評価単価の見積方法を単位当たりの本源的価値の見積りによっております。また、単位当たりの本源的価値の算定基礎となる自社の株式価値は、DCF法等の結果を総合的に勘案して決定しております。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

5. ストック・オプションの単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額及び当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

当連結会計年度における本源的価値の合計額	391,386千円
当連結会計年度において権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額	- 千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
役員退職慰労引当金	31,970千円	38,152千円
退職給付に係る負債	17,997 "	22,080 "
賞与引当金	6,569 "	20,957 "
固定資産の未実現利益	6,245 "	7,873 "
税務上の繰越欠損金	1,968 "	- "
その他	8,086 "	12,688 "
繰延税金資産小計	72,837千円	101,752千円
評価性引当額	49,256 "	60,592 "
繰延税金資産合計	23,580千円	41,159千円
繰延税金負債	-	- 千円
繰延税金負債合計	-	- 千円
繰延税金資産純額	23,580千円	41,159千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.9%	0.5%
住民税均等割	1.3%	0.8%
のれん償却費	2.6%	1.6%
評価性引当額の増減	8.5%	3.7%
連結子会社との税率差異	0.2%	0.1%
その他	1.8%	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.0%	37.1%

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、主に音楽著作権事業を中心に、楽曲の著作権者と利用者との間に立ち、その著作権の管理と利用促進を推進する著作権エージェントであり、取り扱うサービスごとに、事業戦略を立案し事業活動を展開しております。

従って、各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類は、「著作権等管理事業」と「キャストイング事業」の2つを報告セグメントとしております。

「著作権等管理事業」では、作詞家/作曲家や音楽出版社など著作権者からの委託を受け、音楽著作物の利用の許諾、使用料の徴収・分配を行います。また、音楽著作権管理事業を中心にしながら、デジタルコンテンツディストリビューション業務など、周辺ビジネスを幅広くサポートしております。

「キャストイング事業」では、アーティストプロモーション業務の協力を積極的に行っており、ライブビューイング、音楽ドキュメンタリー映画の配給・宣伝など映画館を活用した展開サポートを含め、多岐に渡り音楽業界をサポートしています。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高及び振替高は、市場実勢価額に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注) 2.4.6	連結財務諸表 計上額 (注)3
	著作権等管理 事業	キャストイング 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,598,923	487,751	3,086,675	153,126	3,239,801	-	3,239,801
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	116,496	116,496	116,496	-
計	2,598,923	487,751	3,086,675	269,622	3,356,297	116,496	3,239,801
セグメント利益	505,389	71,619	577,008	41,119	618,128	435,678	182,449
セグメント資産	908,159	260,509	1,168,668	74,400	1,243,069	1,892,777	3,135,846
その他の項目							
減価償却費	57,127	-	57,127	754	57,881	9,264	67,146
のれんの償却額	16,113	-	16,113	-	16,113	-	16,113
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	57,504	-	57,504	11,247	68,752	20,021	88,773

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発・保守運用事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 435,678千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 428,336千円及びセグメント間取引消去 7,342千円が含まれております。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. セグメント資産の調整額1,892,777千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。
5. セグメント負債については、事業セグメントに負債を配分していないため記載しておりません。
6. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額20,021千円は、主に本社建物の設備投資額であります。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注) 2.4.6	連結財務諸表 計上額 (注)3
	著作権等管理 事業	キャストイング 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,782,230	459,947	4,242,177	103,303	4,345,481	-	4,345,481
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	123,067	123,067	123,067	-
計	3,782,230	459,947	4,242,177	226,371	4,468,549	123,067	4,345,481
セグメント利益	688,561	36,683	725,245	17,030	742,275	436,609	305,665
セグメント資産	777,963	17,526	795,490	172,173	967,664	3,279,227	4,246,891
その他の項目							
減価償却費	59,833	-	59,833	2,737	62,571	12,528	75,099
のれんの償却額	16,113	-	16,113	-	16,113	-	16,113
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	61,332	-	61,332	63,973	125,306	5,443	130,749

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発・保守運用事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 436,609千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 431,294千円及びセグメント間取引消去 5,315千円が含まれております。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. セグメント資産の調整額3,279,227千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産であります。
5. セグメント負債については、事業セグメントに負債を配分していないため記載しておりません。
6. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額5,443千円は、主に社内ネットワークの設備投資額であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	米国	その他	合計
2,688,090	447,430	104,280	3,239,801

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
iTunes株式会社	735,259	著作権等管理事業

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	米国	その他	合計
3,155,540	983,686	206,255	4,345,481

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
iTunes株式会社	1,023,219	著作権等管理事業
Google株式会社	566,549	著作権等管理事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	著作権等管理 事業	キャストイン グ事業	計			
当期償却額	16,113	-	16,113	-	-	16,113
当期末残高	110,105	-	110,105	-	-	110,105

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	著作権等管理 事業	キャストイン グ事業	計			
当期償却額	16,113	-	16,113	-	-	16,113
当期末残高	93,992	-	93,992	-	-	93,992

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る）等

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又 は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
その他の 関係会社	エイベックス・ ミュージック・ パブリッシング (株)	東京都 港区	10,000	著作権の 管理等	(被所有) 直接 29.2	著作権管理の 受託 役員の兼任	著作権使用料の 分配 (注1) (注2)	758,717	未払金	144,701

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 当社の約款・規程等に基づき決定しております。
2. 連結損益計算書上、著作権使用料の徴収額から分配額を控除した純額を、売上高として計上しております。
よって、当該著作権使用料の分配額は連結損益計算書上には含まれておりません。
3. 記載金額のうち、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又 は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
主要株主 (法人) (注1)	エイベックス・ ミュージック・ パブリッシング (株)	東京都 港区	10,000	著作権の 管理等	(被所有) 直接 14.95	著作権管理の 受託 役員の兼任	著作権使用料の 分配 (注2) (注3)	960,750	未払金	71,566

取引条件及び取引条件の決定方針等

- (注) 1. 2020年3月30日に当社株式の東京証券取引所マザーズ市場への新規上場に伴う株式売出により、同社の属性はその他の関係会社から主要株主に変更になりました。なお、取引金額については、その他の関係会社であった期間も含めて記載しております。
2. 当社の約款・規程等に基づき決定しております。
3. 連結損益計算書上、著作権使用料の徴収額から分配額を控除した純額を、売上高として計上しております。
よって、当該著作権使用料の分配額は連結損益計算書上には含まれておりません。
4. 記載金額のうち、取引金額には消費税が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	494.77円	688.80円
1株当たり当期純利益	47.93円	70.68円
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	-	66.75円

(注) 1. 前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、新株予約権の残高がありますが、当社株式は非上場であるため期中平均株価が把握できませんので、記載しておりません。

2. 2019年12月26日開催の取締役会決議により2020年1月15日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

3. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	129,593	191,488
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	129,593	191,488
普通株式の期中平均株式数(株)	2,704,000	2,709,122
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	-	159,709
(うち新株予約権(株))	(-)	(159,709)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	2010年6月25日 取締役会決議の第6回新株予約権 新株予約権の数 94個 普通株式数 18,800株 2019年2月22日 取締役会決議の第7回新株予約権 新株予約権の数 1,350個 普通株式 270,000株 これらの詳細については、「第4 提出会社の状況1 株式等の状況(2)新株予約権等の状況」に記載の通りであります。	-

4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (2019年3月31日)	当連結会計年度末 (2020年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	1,343,632	2,120,821
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	5,769	-
(うち非支配株主持分(千円))	(5,769)	(-)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	1,337,862	2,120,821
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	2,704,000	3,079,000

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	-	-	3,181,089	4,345,481
税金等調整前四半期(当期)純利益 (千円)	-	-	260,788	304,296
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	-	-	177,927	191,488
1株当たり四半期(当期)純利益 (注)2 (円)	-	-	65.80	70.68

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (注)2 (円)	-	-	30.14	4.98

- (注)1. 当社は2020年3月30日付で、東京証券取引所マザーズに上場いたしましたので、当連結会計年度の四半期報告書は提出していませんが、金融商品取引法193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。
2. 2019年12月26日開催の取締役会決議により、2020年1月15日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っておりますが、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,781,519	3,089,047
売掛金	1 404,199	1 169,408
仕掛品	6,297	-
前渡金	100,882	1 159,401
その他	1 14,301	1 66,677
流動資産合計	2,307,200	3,484,534
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	15,777	8,221
工具、器具及び備品（純額）	12,156	12,796
有形固定資産合計	27,933	21,018
無形固定資産		
のれん	110,105	93,992
ソフトウェア	331,345	336,928
その他	84	1,146
無形固定資産合計	441,534	432,067
投資その他の資産		
関係会社株式	30,000	30,000
関係会社長期貸付金	4,500	-
繰延税金資産	13,737	25,897
差入保証金	49,675	73,597
その他	7,126	3,959
投資その他の資産合計	105,038	133,454
固定資産合計	574,507	586,539
資産合計	2,881,708	4,071,074

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	488,871	505,099
未払金	¹ 725,927	¹ 1,020,783
未払法人税等	45,801	117,399
前受金	125,269	99,328
賞与引当金	14,821	47,033
その他	37,079	31,181
流動負債合計	1,437,770	1,820,825
固定負債		
退職給付引当金	53,048	64,990
役員退職慰労引当金	104,411	124,598
固定負債合計	157,459	189,589
負債合計	1,595,230	2,010,415

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	819,762	1,113,012
資本剰余金		
資本準備金	356,301	649,551
資本剰余金合計	356,301	649,551
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	110,414	298,095
利益剰余金合計	110,414	298,095
株主資本合計	1,286,478	2,060,659
純資産合計	1,286,478	2,060,659
負債純資産合計	2,881,708	4,071,074

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
売上高	1 3,032,697	1 4,234,768
売上原価	2,141,876	3,085,238
売上総利益	890,820	1,149,530
販売費及び一般管理費	1. 2 753,816	1. 2 848,952
営業利益	137,003	300,577
営業外収益		
受取利息	122	108
助成金収入	3,350	-
貸倒引当金戻入額	4,558	-
その他	755	673
営業外収益合計	8,787	781
営業外費用		
上場関連費用	-	11,241
支払利息	50	-
その他	451	29
営業外費用合計	501	11,270
経常利益	145,289	290,088
特別利益		
固定資産売却益	2,413	-
抱合せ株式消滅差益	9,258	-
関係会社株式売却益	-	8,320
特別利益合計	11,671	8,320
特別損失		
固定資産除却損	0	-
特別損失合計	0	-
税引前当期純利益	156,961	298,409
法人税、住民税及び事業税	37,990	122,887
法人税等調整額	8,556	12,159
法人税等合計	46,547	110,727
当期純利益	110,414	187,681

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
労務費		11,967	0.6	18,681	0.6
経費		2,129,908	99.4	3,066,556	99.4
売上原価合計		2,141,876	100.0	3,085,238	100.0

(注) 主な内訳は、次のとおりであります。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
ロイヤリティー	2,067,010	3,012,585
外注費	58,122	36,618

(原価計算の方法)

当社の原価計算は、個別原価計算を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	819,762	693,492	59,441	752,933
当期変動額				
欠損填補		337,190	59,441	396,631
当期純利益				
当期変動額合計	-	337,190	59,441	396,631
当期末残高	819,762	356,301	-	356,301

	株主資本			純資産合計
	利益剰余金		株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
	繰越利益剰余金			
当期首残高	396,631	396,631	1,176,063	1,176,063
当期変動額				
欠損填補	396,631	396,631	-	-
当期純利益	110,414	110,414	110,414	110,414
当期変動額合計	507,046	507,046	110,414	110,414
当期末残高	110,414	110,414	1,286,478	1,286,478

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	819,762	356,301	-	356,301
当期変動額				
新株の発行	293,250	293,250		293,250
当期純利益				
当期変動額合計	293,250	293,250	-	293,250
当期末残高	1,113,012	649,551	-	649,551

	株主資本			純資産合計
	利益剰余金		株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
	繰越利益剰余金			
当期首残高	110,414	110,414	1,286,478	1,286,478
当期変動額				
新株の発行			586,500	586,500
当期純利益	187,681	187,681	187,681	187,681
当期変動額合計	187,681	187,681	774,181	774,181
当期末残高	298,095	298,095	2,060,659	2,060,659

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

仕掛品

個別法による原価法（貸借対照表価格は収益性の低下による簿価切り下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 2～6年

工具、器具及び備品 2～15年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、主な償却年数は次のとおりであります。

のれん 10年

ソフトウェア（自社利用）5～10年（社内における利用可能期間）

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。なお、当事業年度においては貸倒実績がなく、貸倒懸念債権等もないため貸倒引当金は計上しておりません。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき当事業年度末に発生していると認められる額を計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員報酬規程に基づく期末要支給額を計上しております。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(3) その他

記載金額は千円未満を切捨てて表示しております。

記載金額が「0」は千円未満であることを示しております。

記載金額が「-」は該当金額がないことを示しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期金銭債権	15,788千円	89,317千円
短期金銭債務	183,464 "	44,778 "

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	14,300千円	8,595千円
販売費及び一般管理費	42,834 "	49,850 "
営業取引以外の取引による取引高	67,114 "	68,789 "

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
給料及び手当	216,340千円	220,729千円
役員報酬	86,551 "	99,500 "
賞与引当金繰入額	14,153 "	45,082 "
のれん償却額	16,113 "	16,113 "
減価償却費	68,053 "	75,566 "
役員退職慰労引当金繰入額	54,078 "	20,187 "
おおよその割合		
販売費	15%	16%
一般管理費	85 "	84 "

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
子会社株式	30,000	30,000
計	30,000	30,000

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
役員退職慰労引当金	31,970千円	38,152千円
退職給付引当金	16,243 "	19,900 "
賞与引当金	4,538 "	14,401 "
未払事業税	3,741 "	7,877 "
関係会社株式評価損	3,433 "	- "
税務上の繰越欠損金	1,968 "	- "
その他	1,984 "	6,158 "
繰延税金資産小計	63,879千円	86,489千円
評価性引当額	50,142 "	60,592 "
繰延税金資産合計	13,737千円	25,897千円
繰延税金負債	-	-千円
繰延税金負債合計	-	-千円
繰延税金資産純額	13,737千円	25,897千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.0%	0.5%
住民税均等割	1.5%	0.8%
のれん償却費	3.1%	1.7%
評価性引当額の増減	7.4%	3.5%
その他	0.8%	0.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	29.7%	37.1%

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累計額
有形固定資産	建物	31,436	-	-	7,556	31,436	23,215
	工具、器具及び 備品	21,037	5,443	-	4,803	26,481	13,684
	計	52,474	5,443	-	12,359	57,918	36,900
無形固定資産	のれん	161,130	-	-	16,113	161,130	67,137
	ソフトウェア	478,317	68,789	-	63,206	547,107	210,178
	その他	84	1,062	-	-	1,146	-
	計	639,531	69,851	-	79,319	709,383	277,316

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

ソフトウェア 著作権管理システム 68,789千円

2. 「当期首残高」及び「当期末残高」は取得価額により記載しております。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
賞与引当金	14,821	47,033	14,821	47,033
役員退職慰労引当金	104,411	20,187	-	124,598

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
剰余金の配当の基準日	毎年9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告は、電子公告としております。ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 https://www.nex-tone.co.jp/
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の単元未満株主は、以下に掲げる権利以外の権利を行使できない旨、定款に定めております。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券届出書及びその添付書類

有償一般募集増資（ブックビルディング方式による募集）及び株式売出し（ブックビルディング方式による売出し）2020年2月25日関東財務局長に提出。

(2) 有価証券届出書の訂正届出書

上記(1)に係る訂正届出書を2020年3月11日及び2020年3月19日関東財務局長に提出。

(3) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）に基づく臨時報告書2件を2020年3月30日に関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

2020年6月24日

株式会社NextOne

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士 大 高 俊 幸

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士 後 藤 英 俊

業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社NextOneの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社NextOne及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ

適切な監査証拠を入手する。

- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2020年6月24日

株式会社NexTone
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士 大 高 俊 幸

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士 後 藤 英 俊

業務執行社員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社NexToneの2019年4月1日から2020年3月31日までの第20期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社NexToneの2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。